

茨木市生涯学習に関する調査分析 報告書

平成 31 年（2019 年）3 月



茨 木 市

目 次

第 1 章 調査分析にあたって	1
1 調査分析の背景と動向・趣旨	1
2 調査分析にあたっての趣旨	6
第 2 章 茨木市の生涯学習の現状	7
1 統計データからみえる現状	7
2 アンケート調査からみえる現状	14
第 3 章 茨木市の生涯学習の課題及び今後の検討事項	45
生涯学習をめぐる課題及び今後の検討事項	45



第 1 章

調査分析にあたって

1 調査分析の背景と動向・趣旨

(1) 生涯学習をめぐる背景

我が国では、少子化による人口減少の局面に入るとともに、高齢化が急速な勢いで進んでいます。茨木市（以下、本市という。）においては、総人口については増加していますが、少子高齢化が進行しています。平成 27 年（2015 年）3 月に策定された第 5 次茨木市総合計画の将来推計では、平成 31 年（2019 年）をピークに総人口が減少することが予測されています。

また、個人の価値観やライフスタイルの多様化、「人生 100 年時代」の到来、働き方改革による余暇時間の増加等により、学習ニーズも大きく変化しています。社会の変化の激しい今後の時代においては、学校を卒業し、社会人となった後も、大学等でさらに学びを深めていくことや、新たな知識や技能、教養を身につけることが必要となります。中央教育審議会生涯学習分科会では、人工知能（AI）や IoT（アイオーティー）*の進展等の急速な技術革新によって社会の在り方が大きく変化していくことが予想されており、こうした変化に対応する力を一人ひとりが身につけ、生涯学習の学びの機会やさまざまな活動に生かすことも重要になってきます。

さらに、国においては、近年、公民館、図書館をはじめとする社会教育施設には、従来の生涯学習のみにとどまらず、地域活性化・まちづくりの拠点、地域の防災拠点などより幅広い役割も期待しており、行政だけでなく、地域、大学、企業、NPO 等が連携し協働して、取組を進めることが求められています。

また、生涯学習の推進にあたっては、一人ひとりの多様な学習ニーズに対応した取組が求められ、障害のあるなしに関わらず学ぶインクルーシブ教育の推進や外国人に対しては多文化共生の視点をふまえることが重要であり、“誰もがいつでもどこでも”生涯学習に取り組める環境づくりが必要とされています。

※IoT【Internet of Things】とは、モノのインターネット化のこと。コンピュータなどの情報・通信機器だけでなく、世の中に存在する様々な物体（モノ）に通信機能を持たせ、インターネットに接続したり相互に通信することにより、自動認識や自動制御、遠隔計測などができる。

(2) 国の動向

国においては、「教育基本法（平成 18 年（2006 年）改正）」の精神にのっとり、国民一人ひとりが自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現を目指しています。

教育基本法をふまえ平成 25 年（2013 年）6 月に閣議決定された「第 2 期教育振興基本計画」においては、今後の社会の方向性として「創造」「自立」「協働」を理念として掲げ、国民一人ひとりが生涯を通して学ぶことのできる環境の整備、多様な学習機会の提供や、学習した成果が適切に評価され、それらを生かしてさまざまな分野で活動できるようにするための仕組みづくりなど、生涯学習社会の実現のための取組を進めています。

平成 27 年（2015 年）12 月の中央教育審議会答申においては、地域社会のつながりや支え合いの希薄化等による地域の教育力の低下や、家庭教育の充実の必要性が指摘され、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘されました。また、これからの学校と地域の目指すべき連携・協働の姿として、地域とともにある学校への転換、子どもも大人も学び合い育ち合う教育体制の構築、学校を核とした地域づくりの推進が示されています。

平成 28 年（2016 年）5 月の中央教育審議会答申においては、「個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について」が示され、職業教育の充実、社会人の学び直し等、多様な学習ニーズへの対応を含む「質の高い専門職業人養成」や、生涯を通じた学習機会の充実、学習した成果が適切に評価・活用される社会に向けた「『学び』と『活動』の循環」を進めることが重要とされています。

平成 29 年（2017 年）10 月には、人生 100 年時代構想会議が開催され、一億総活躍社会実現への本丸は人づくりであるとして、子どもたちの誰もが経済事情にかかわらず夢に向かって頑張ることができる社会、いくつになっても学び直しができる新しいことにチャレンジできる社会をめざし、人生 100 年時代を見据えた経済社会の在り方を構想しています。同会議の第 3 回会議では、「リカレント教育」の拡充が宣言されています。

平成 30 年（2018 年）3 月の中央教育審議会答申を受けて、平成 30 年（2018 年）6 月に閣議決定された、「第 3 期教育振興基本計画」では、第 2 期計画の「自立」「協働」「創造」の方向性を継承し、「人生 100 年時代」を豊かに生きていくためには、「人づくり革命」、「生産性革命」の一環として、若年期の教育、生涯にわたる学習や能力向上を図るとともに、教育を通じて生涯にわたる一人ひとりの「可能性」と「チャンス」を最大化することが、2030 年以降の社会を展望した教育政策の重点事項としてあげられています。

（3）大阪府の動向

大阪府においては、生涯学習に関して、学習情報の提供、学習をささえる人材の育成、施設の効果的な運営などの取組を進めながら、施設等を活用した学習機会の提供や講座等による学習機会の提供、自主活動等への支援、学習情報の提供、顕彰等評価などさまざまな施策に取り組んでいます。

平成 23 年（2011 年）12 月に「大阪府生涯学習推進課長会議」を設置し、生涯学習に関する情報交換及び意見交換や、生涯学習施策のとりまとめ、生涯学習施策の推進について必要な事項の検討を行っています。それらの議論をふまえ、大阪府が実施している生涯学習関連施策の一覧を毎年度更新しており、平成 30 年度（2018 年度）では生涯学習施策一覧（計 133 事業）が記載されています。

(4) 茨木市の動向

本市では、平成10年(1998年)に「学ぶ喜びをまちの誇りや豊かさに結実していく」ことを推進目標とした生涯学習推進計画を策定し、同年には、茨木市生涯学習推進計画の策定趣旨に添い、生涯学習活動の一層の充実と発展を願い、生涯学習都市宣言を採択しました。(5ページに全文記載)

また、市民が生涯にわたって、いつでも、どこでも自由に学びたいことを学び、豊かな生活を実現するとともに、その成果が適切に評価されるような生涯学習のまちづくりを進め、平成16年(2004年)には、その拠点施設として生涯学習センターきらめきがオープンし、主催の講座や大学との共催によるさまざまな講座を実施し、市民のニーズに沿った生涯学習の機会を提供しています。また、市職員が各地域のニーズに応じて出向く出前講座を実施しており、講座のテーマについては、人権、福祉健康、コミュニティ、教育文化、環境、防災、まちづくりなど分野はさまざまとなっています。平成29年度(2017年度)は、市の関係各課(52課:115のメニュー)で行っています。

平成27年(2015年)には、「第5次茨木市総合計画」が策定され、まちの将来像「みんなの“楽しい”が見つかる文化のまち」をめざし、生涯学習の機会を増やし情報提供を充実することを施策として位置づけています。また、市民、行政、教育機関などの連携により、社会的な課題や市民ニーズに対応した多様な学習の場や機会、情報などを提供し、市民の主体的な生涯学習活動を促すこととしています。さらに、社会教育については、学校教育との連携を図りながら、これからの時代に求められる成人教育や、公民館活動の推進、図書館の機能の充実を図ることとしています。

本市の特徴として、平成27年(2015年)4月に立命館大学「大阪いばらきキャンパス」が開設されるなど、短期大学を含め6つの大学があり、高等教育機関が充実しています。地域の活性化等を図ることを目的に、市内外の大学等と協定を締結する等、相互に連携、協力を行っています。地域においては、各小学校区に設置されている公民館やコミュニティセンターを中心とした活動が活発に行われており、生涯学習においても趣味や教養といった講座・講習等が中心に展開されており、地域の活性化につなげている地区もみられます。

図書館においては、中央図書館は府内でも大規模の蔵書(約73万冊:平成29年度(2017年度)時点)を有しており、CD資料も豊富で、絵画の貸出等も行っています。市民からの相談に応える「レファレンスサービス」にも積極的に取り組み、「市民のくらしに役立ち、誰もが気軽に利用できる親しみやすい魅力的な図書館」を目指

しています。平成 28 年（2016 年）1 月に自動貸出機の導入や資料貸出点数の変更を行う等のサービスの向上に取り組んだことにより、市民の人口に占める貸出点数が北摂 7 市で最も高いなど、多くの市民が利用しています。

情報提供においては、広報誌・市ホームページ・生涯学習情報誌「NextStage」の提供など、学習活動をはじめたり、継続したりする際の情報を提供しています。また、生涯学習団体や公民館・コミュニティセンターを利用している団体と講師等の連絡先を記載した「グループガイド」を発行し、団体活動の支援を行っています。

生涯学習都市宣言

わたくしたちは 生きています
みどりと歴史に恵まれた 茨木の地に

生きているかぎり わたくしたちは
学びつづけます
自分自身の可能性と 善さを 見出すために

宇宙の星ぼし 世界の友達と
手を取りあって
愛と 叡知と 真実にあふれ
文化のかおり高いこのまちで

茨木市民の願いを活かし
人間として尊厳を思い
生涯学習の場と機会をささえるために
茨木市は
市制施行 50 周年にあたり
生涯学習都市とすることを宣言します

平成 10 年（1998 年）11 月 3 日

茨木市

2 調査分析にあたっての趣旨

今回の調査分析にあたっては、生涯学習をめぐる背景や国・大阪府・茨木市の動向をふまえるとともに、平成 10 年（1998 年）に宣言された茨木市生涯学習都市宣言や第 5 次茨木市総合計画の方針をふまえ、市民アンケート調査、団体アンケート調査から茨木市の生涯学習の現状や課題を把握し、（仮称）茨木市生涯学習推進計画素案の作成につなげていきます。



第2章

茨木市の生涯学習の現状

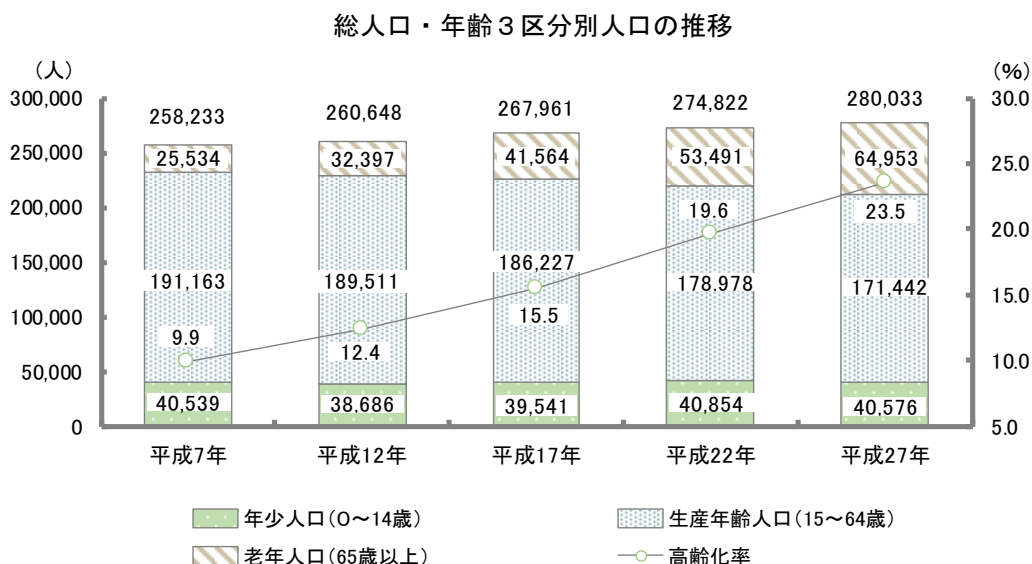
1 統計データからみえる現状

(1) 人口等の状況

① 総人口・年齢3区分別人口の推移

総人口の推移をみると、増加傾向にあり、平成27年（2015年）で280,033人となっており、平成7年（1995年）に比べ21,800人増加しており、1.08倍となっています。

年齢3区分別人口の推移をみると、老年人口（65歳以上）の増加傾向が顕著であり、平成27年（2015年）で64,953人となっており、平成7年（1995年）に比べ、39,419人増加しており、2.54倍となっています。一方、生産年齢人口（15～64歳）は減少しており、平成27年（2015年）は平成7年（1995年）に比べ、19,721人減少しており、0.90倍、年少人口（0～14歳）は増減を繰り返し、ほぼ横ばいで推移しています。



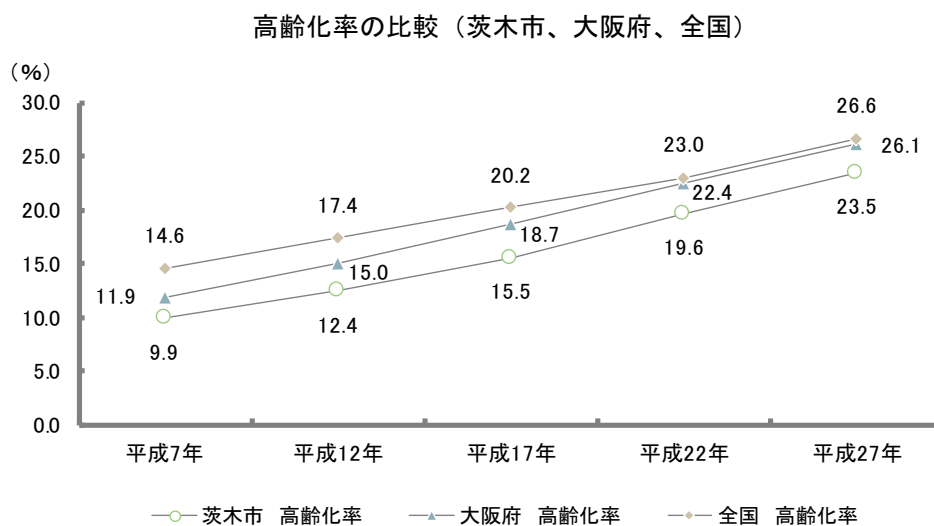
※総人口には、年齢不詳を含みます

※高齡化率は、年齢不詳を除いて算出

資料：国勢調査

② 高齢化率の比較

本市の高齢化率は、増加傾向にあります。全国、大阪府と比べ、低くなっています。また、北摂7市の中でみると、吹田市に次いで高齢化率が低くなっています。



資料：国勢調査

高齢化率の比較（北摂7市）

北摂7市	高齢化率 (%)
高槻市	27.7
池田市	25.9
箕面市	25.9
豊中市	25.4
摂津市	24.4
茨木市	23.5
吹田市	22.9

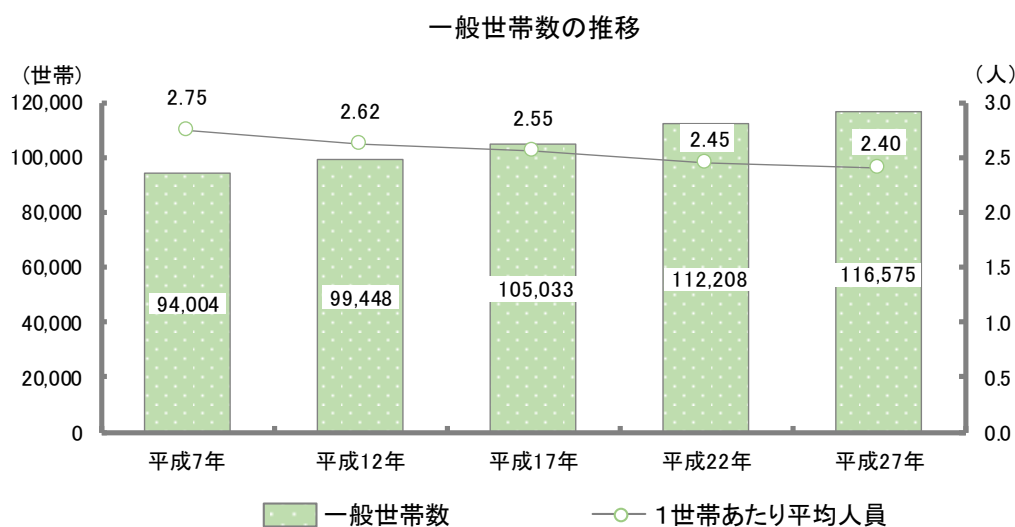
※高齢化率は、年齢不詳を除いて算出

資料：国勢調査（平成27年（2015年））

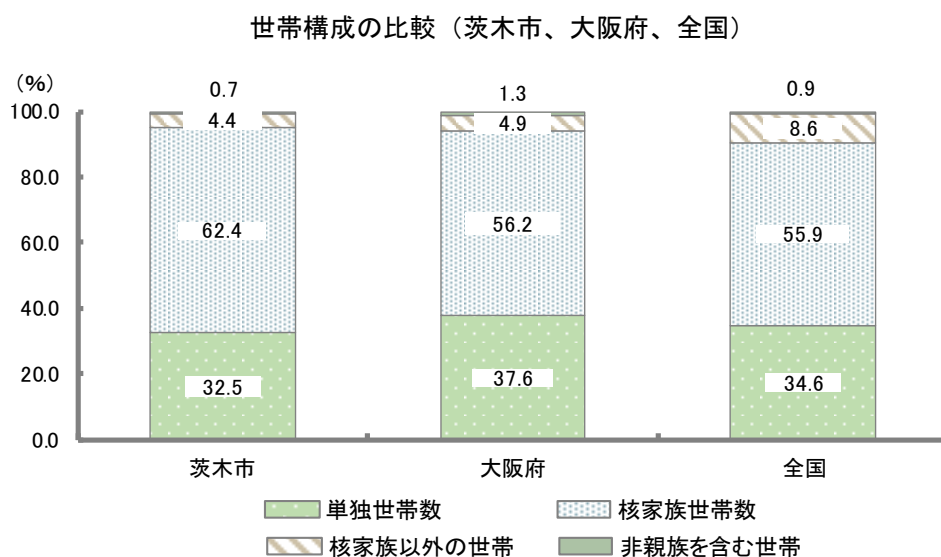
③ 一般世帯数の推移

本市の一般世帯数の推移をみると、増加傾向にあり、平成 27 年（2015 年）で 116,575 世帯となっています。一方、1 世帯あたりの平均人員は減少傾向にあり、平成 27 年（2015 年）で 1 世帯あたり 2.40 人と核家族化が進んでいます。

世帯構成割合をみると、全国、大阪府と比べ、核家族世帯の割合が高くなっています。



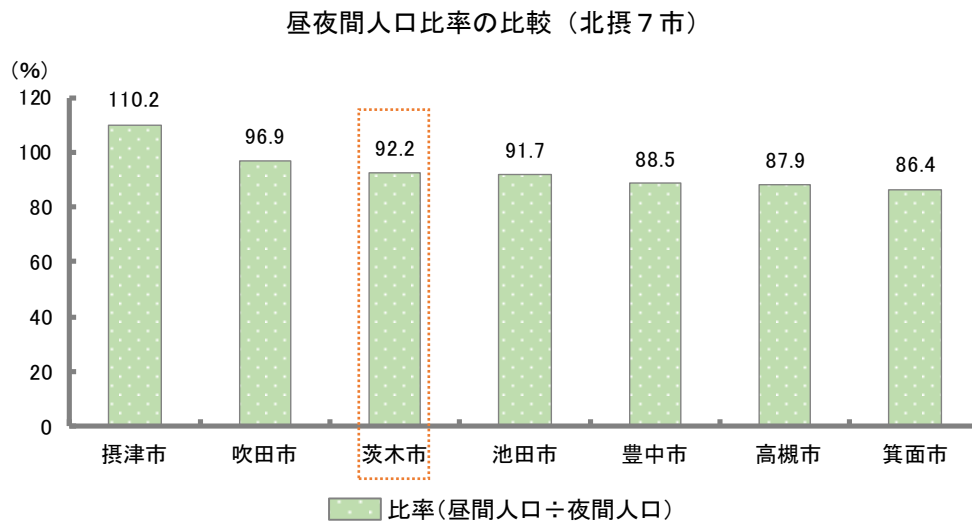
資料：国勢調査



資料：国勢調査（平成 27 年（2015 年））

④ 昼夜間人口比率

昼夜間人口比率をみると、本市は 92.2%となっており、摂津市、吹田市に次いで高くなっています。



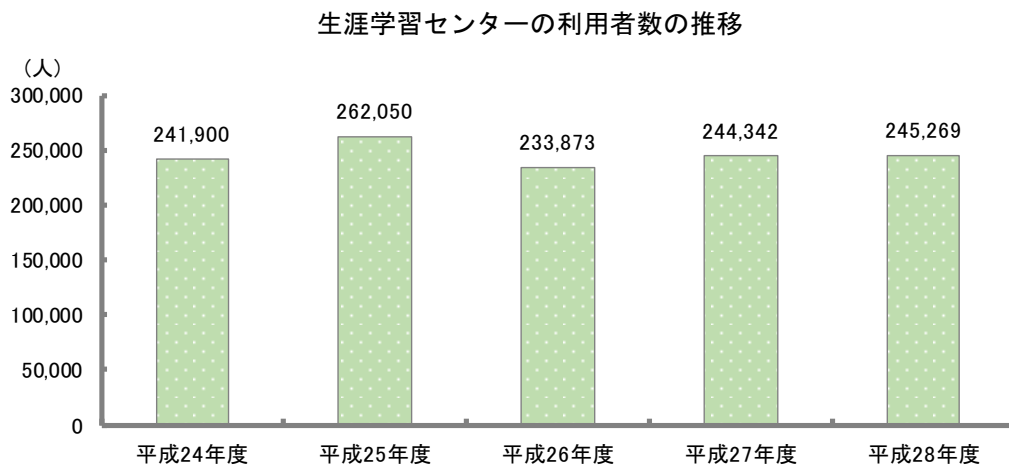
資料：国勢調査（平成 27 年（2015 年））

(2) 主な生涯学習施設の状況

① 生涯学習センターの利用状況

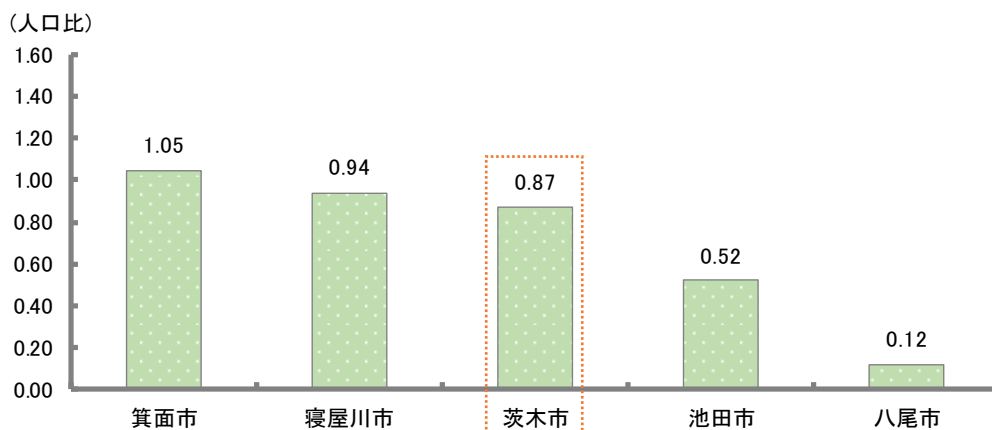
生涯学習センターの利用者数の推移をみると、増減を繰り返しており、平成28年度（2016年度）で245,269人となっています。

また、本市の生涯学習センター利用者の人口比は、0.87となっています。



資料：茨木市統計書（各年3月31日現在）

生涯学習センター利用者の人口比の比較（北摂7市、同規模市）（平成28年度（2016年度））



※豊中市、吹田市、摂津市は生涯学習の拠点施設なし

※高槻市は団体件数のみの表記のため記載なし

※池田市はカルチャープラザ、箕面市は生涯学習センター3施設（中央、東、西南）の合計、

八尾市は生涯学習センター、寝屋川市はエスポワール

資料：各市統計資料（3月31日現在）

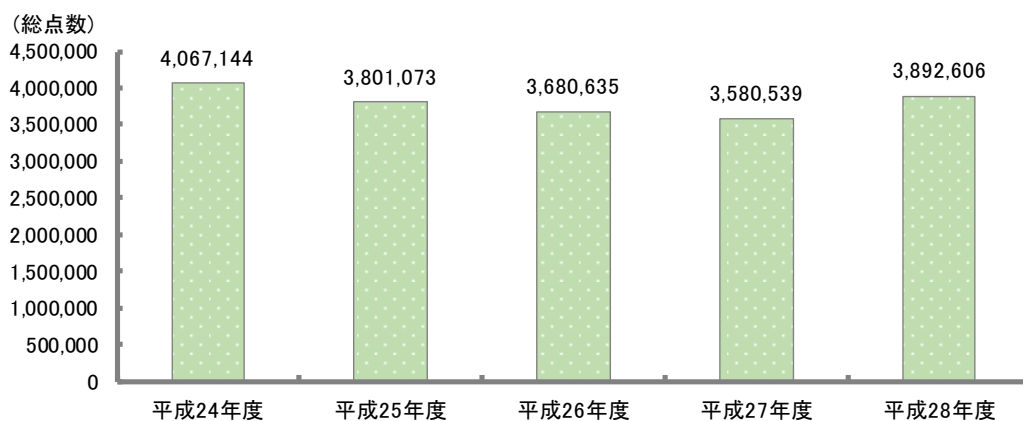
② 図書館の利用状況

本市には、図書館が5か所と図書館分室が8か所あります。

貸出総点数の推移をみると、平成24年度（2012年度）以降減少傾向にありましたが、平成28年度（2016年度）に増加し、3,892,606点となっています。

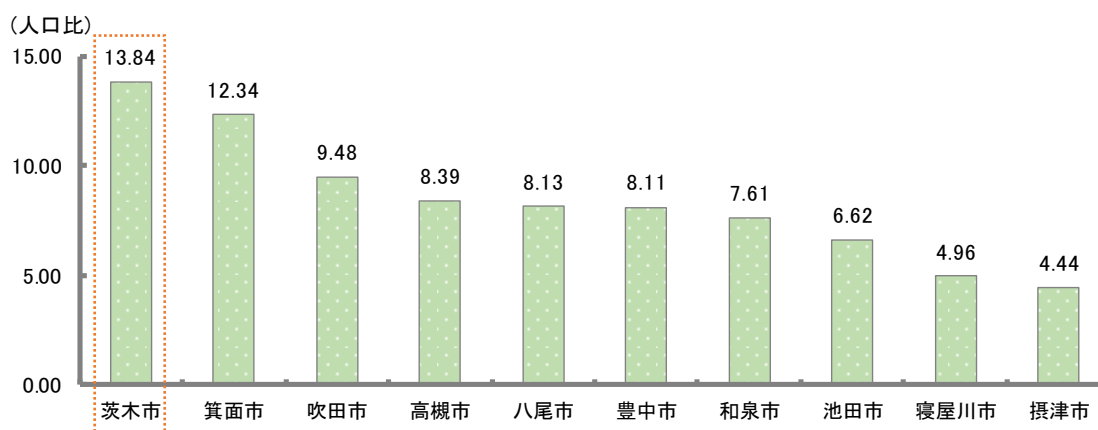
また、貸出総点数の人口比をみると、13.84となっており、北摂7市、同規模市と比べ、一番高くなっています。

図書館の貸出総点数の推移



資料：茨木市統計書（各年3月31日現在）

図書館の貸出総点数の人口比の比較（北摂7市、同規模市）（平成28年度（2016年度））



資料：平成29年度大阪府統計年鑑（3月31日現在）

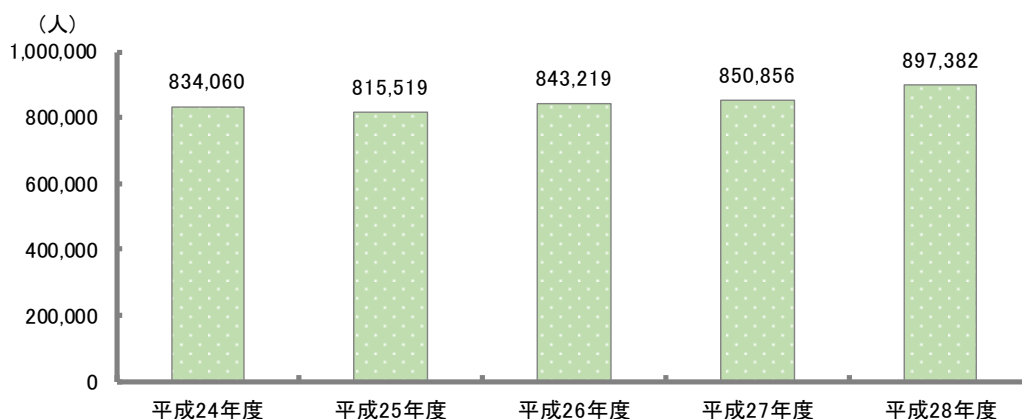
③ 公民館・コミュニティセンターの利用状況

本市には、公民館が33館あります。その内、コミュニティセンターに併設している公民館が16館あり、本市の特徴となっています。

本市の公民館・コミュニティセンターの利用者数の推移をみると、平成25年度以降増加しており、平成28年度（2016年度）で897,382人となっています。

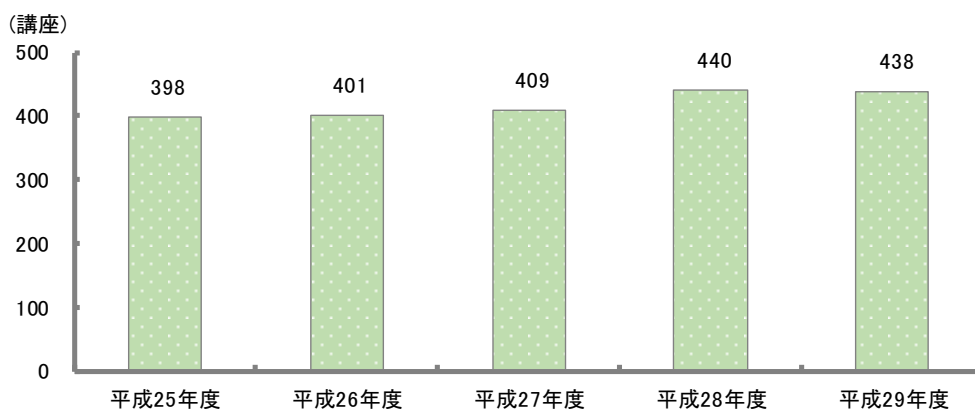
公民館における講座数の推移をみると、平成25年度（2013年度）から増加傾向で推移しており、平成29年度（2017年度）では438講座と400以上の講座を実施しています。

公民館・コミュニティセンターの利用者数（合計）の推移



資料：茨木市統計書（各年3月31日現在）

公民館の講座数の推移



※講座数は、公民館講座（年間を通じて12回開催されるもの）、講習会・生活教育講座（1回あるいは複数回実施されるもの）、講演会（公民館講座、講習会・生活教育講座より規模の大きい催し）を含む

資料：茨木市資料（各年3月31日現在）

2 アンケート調査からみえる現状

(1) アンケート調査の概要

① 調査の目的

市民や団体の生涯学習の現状やニーズを把握し、(仮称)茨木市生涯学習推進計画素案作成に向けた検討の基礎資料として、アンケート調査を実施しました。また、団体アンケート調査で自由意見に回答があった団体に対し、ヒアリング調査を実施しました。

② 調査対象

市民：18歳以上の市民から2,000人を単純無作為抽出

団体：主要団体から100団体を抽出

③ 調査期間

平成30年(2018年)10月26日から平成30年(2018年)11月22日

④ 調査方法

郵送による配布・回収

⑤ 回収状況

調査種類	対象	配布数	回収数	回収率
アンケート	市民(18歳以上)	2,000通	985通	49.3%
	団体	100通	64通	64.0%
ヒアリング	団体	7団体	7団体	—

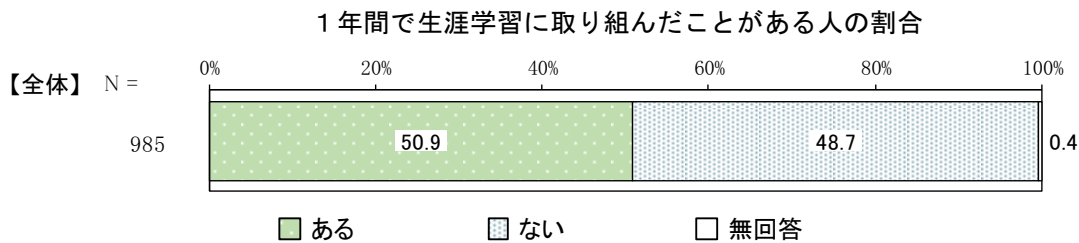
(2) アンケート調査の主な結果

【市民】

① 1年間で生涯学習に取り組んだことがある人の割合

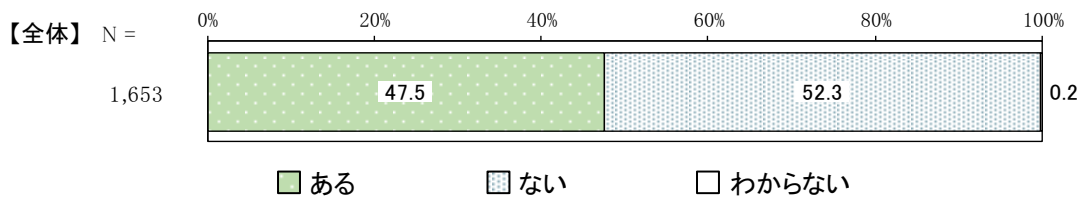
1年間で生涯学習に取り組んだことがある人の割合が50.9%、一方、1年間で生涯学習に取り組んだことがない人の割合が48.7%となっています。

平成27年(2015年)に内閣府で実施された教育・生涯学習に関する世論調査(以下、国調査という。)では生涯学習に取り組んだことがある人の割合が47.5%となっています。



資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

参考：1年間で生涯学習に取り組んだことがある人の割合【国調査】



※「ある」は、「生涯学習をしたことがない」、「わからない」を除いて算出

資料：平成27年(2015年)に内閣府で実施された教育・生涯学習に関する世論調査

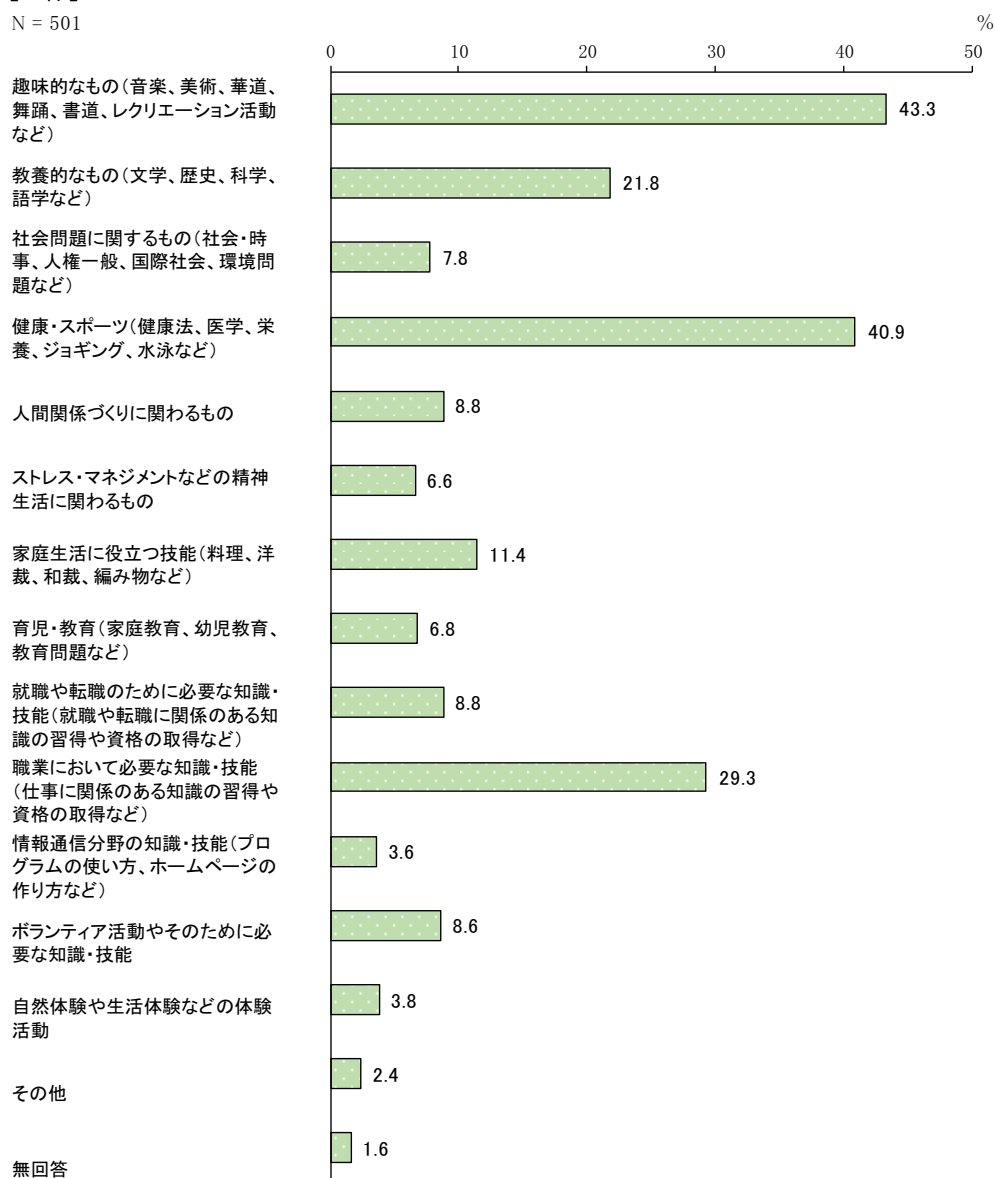
② 生涯学習に取り組んでいる内容

生涯学習に取り組んでいる内容をみると、「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など）」の割合が43.3%と最も高く、次いで「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」の割合が40.9%、「職業において必要な知識・技能（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）」の割合が29.3%となっています。

生涯学習に取り組んでいる内容（生涯学習に取り組んでいる人の回答結果）

【全体】

N = 501



資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

③ 生涯学習に取り組んでいる目的

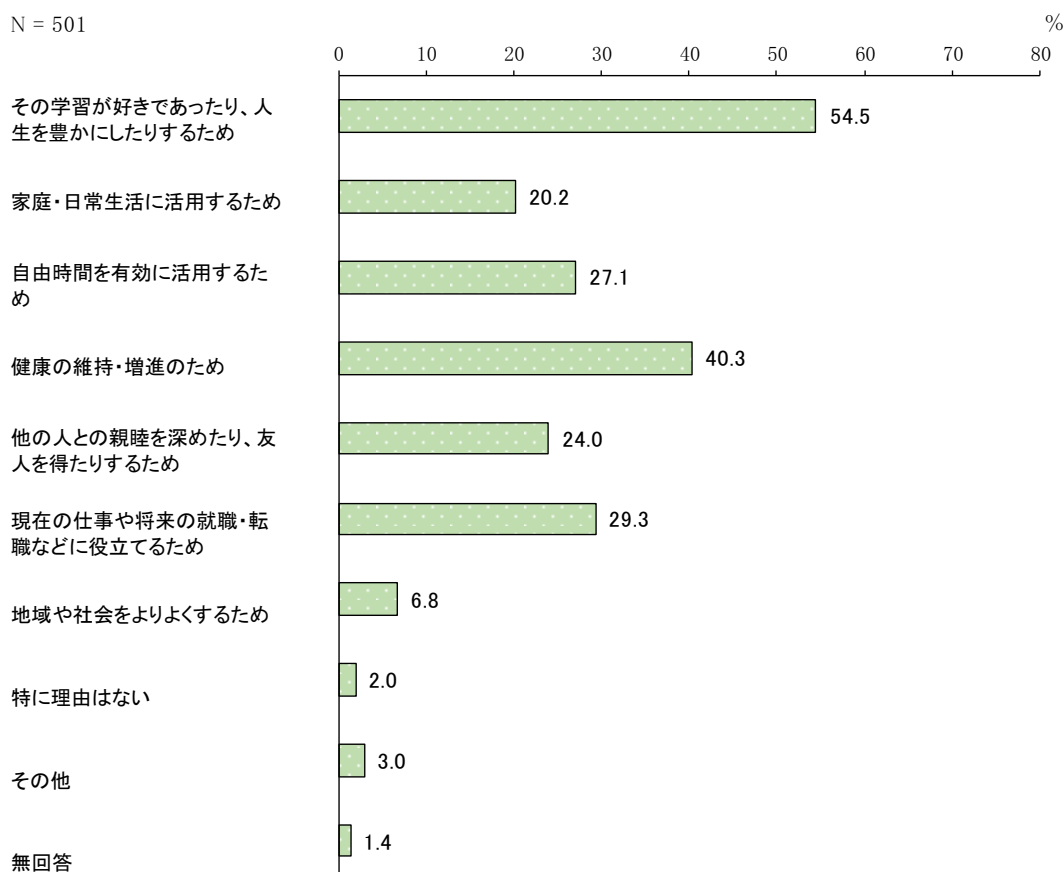
生涯学習に取り組んでいる目的をみると、「その学習が好きであったり、人生を豊かにしたりするため」の割合が54.5%と最も高く、次いで「健康の維持・増進のため」の割合が40.3%、「現在の仕事や将来の就職・転職などに役立てるため」の割合が29.3%となっています。国調査と比較すると、「地域や社会をよりよくするため」の割合が低くなっています。

性・年齢別でみると、女性の60歳代で「その学習が好きであったり、人生を豊かにしたりするため」の割合が高く、女性の30歳代、男性の20歳代から50歳代で「現在の仕事や将来の就職・転職などに役立てるため」の割合が高くなっています。

生涯学習に取り組んでいる目的（生涯学習に取り組んでいる人の回答結果）

【全体】

N = 501

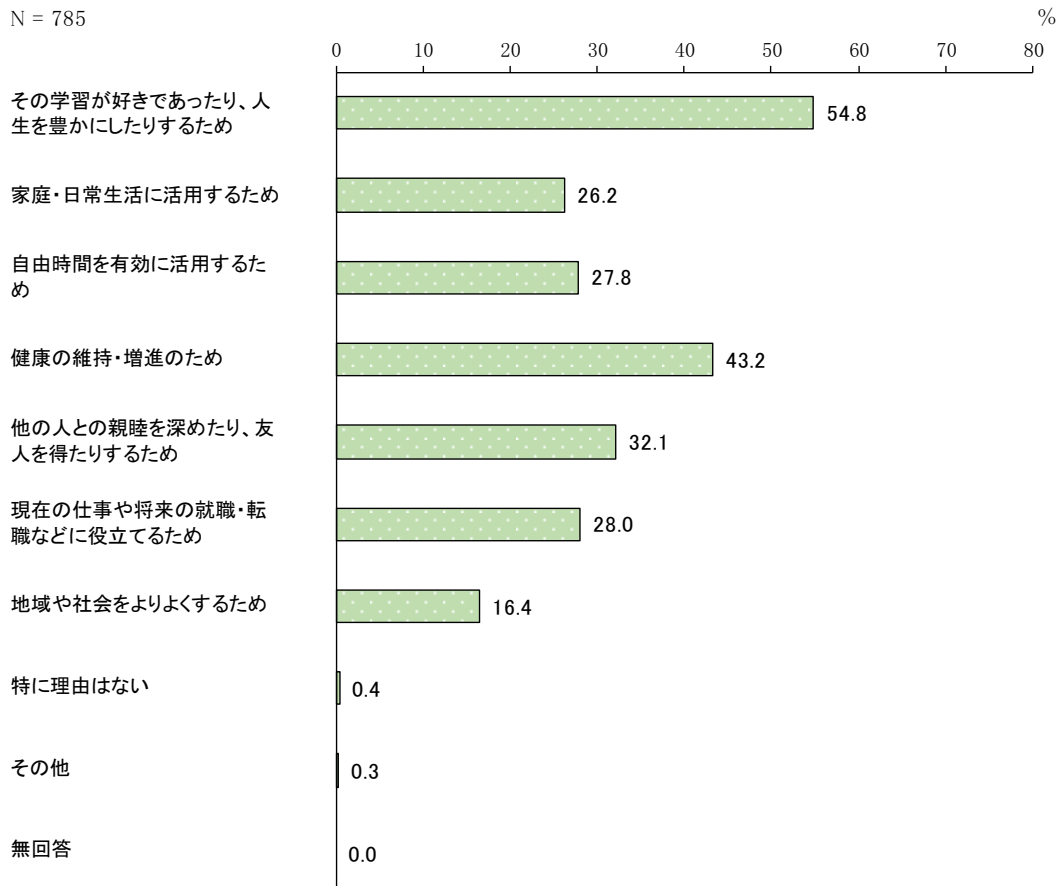


資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

参考：生涯学習に取り組んでいる目的
(生涯学習に取り組んでいる人の回答結果)【国調査】

【全体】

N = 785



資料：平成 27 年（2015 年）に内閣府で実施された教育・生涯学習に関する世論調査

生涯学習に取り組んでいる目的（生涯学習に取り組んでいる人の回答結果）

【性・年齢別】

単位：%

区分	有効回答数 (件)	その学習が好きな 人生を豊かにしたりするた め	家庭・日常生活に活用するた め	自由時間を有効に活用する ため	健康の維持・増進のため	他の人との親睦を深めたり、 友人を得たりするため	現在の仕事や将来の就職・転 職などに役立てるため	地域や社会をよりよくする ため	特に理由はない	その他	無回答
女性 10歳代	3	66.7	—	—	—	—	33.3	—	—	—	—
20歳代	25	36.0	28.0	36.0	28.0	16.0	44.0	—	4.0	—	—
30歳代	35	57.1	34.3	28.6	22.9	11.4	54.3	—	2.9	2.9	—
40歳代	64	67.2	20.3	20.3	25.0	10.9	32.8	4.7	3.1	3.1	—
50歳代	45	57.8	22.2	17.8	42.2	17.8	33.3	8.9	—	—	—
60歳代	60	70.0	23.3	33.3	60.0	36.7	11.7	5.0	—	1.7	—
70歳代	55	65.5	20.0	38.2	50.9	47.3	—	7.3	1.8	1.8	5.5
80歳以上	19	42.1	10.5	15.8	36.8	63.2	—	5.3	—	5.3	—
男性 10歳代	2	50.0	—	—	—	—	50.0	50.0	—	—	—
20歳代	12	58.3	8.3	25.0	25.0	8.3	66.7	16.7	8.3	—	—
30歳代	47	40.4	25.5	12.8	23.4	12.8	68.1	14.9	4.3	10.6	—
40歳代	33	48.5	15.2	9.1	33.3	21.2	54.5	3.0	6.1	3.0	—
50歳代	23	52.2	21.7	30.4	43.5	8.7	47.8	—	—	—	—
60歳代	22	40.9	9.1	45.5	54.5	22.7	9.1	13.6	—	4.5	—
70歳代	34	44.1	11.8	47.1	61.8	32.4	—	14.7	—	—	5.9
80歳以上	17	29.4	11.8	35.3	58.8	29.4	—	—	—	5.9	11.8

資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

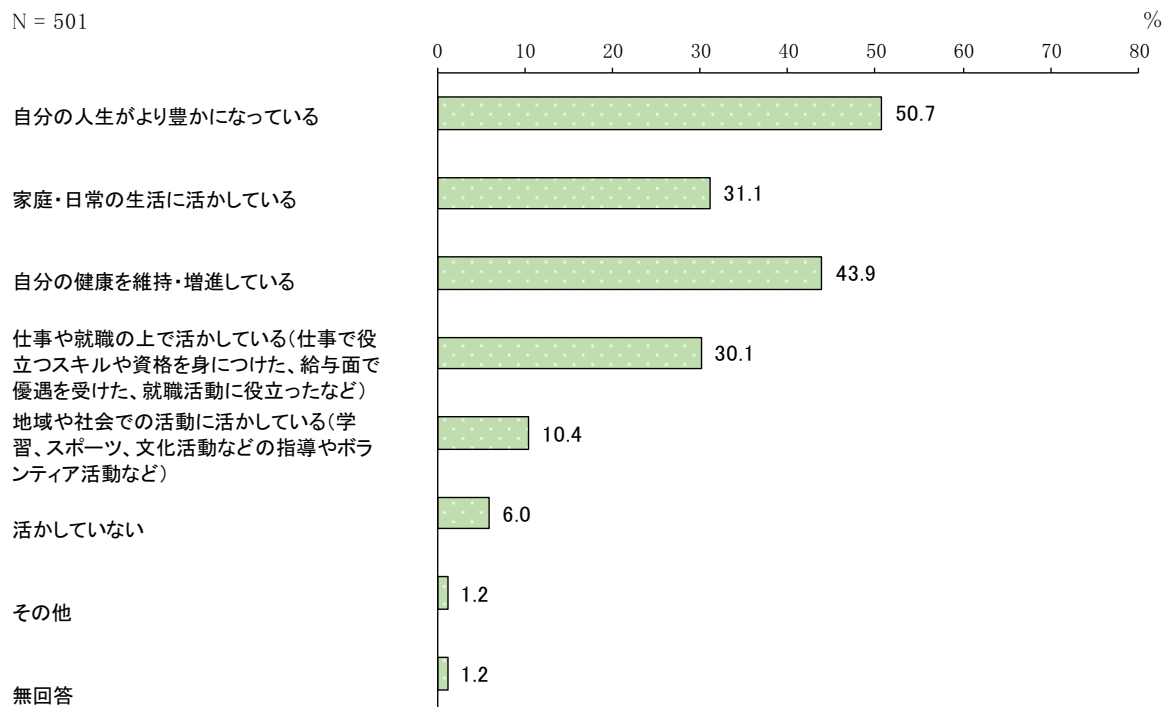
④ 生涯学習で身につけた知識や技能の活かし方

生涯学習で身につけた知識や技能の活かし方については、「自分の人生がより豊かになっている」の割合が50.7%と最も高く、次いで「自分の健康を維持・増進している」の割合が43.9%、「家庭・日常の生活に活かしている」の割合が31.1%、「仕事や就職の上で活かしている（仕事で役立つスキルや資格を身につけた、給与面で優遇を受けた、就職活動に役立ったなど）」の割合が30.1%となっています。

生涯学習で身につけた知識や技能の活かし方（生涯学習に取り組んでいる人の回答結果）

【全体】

N = 501



資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

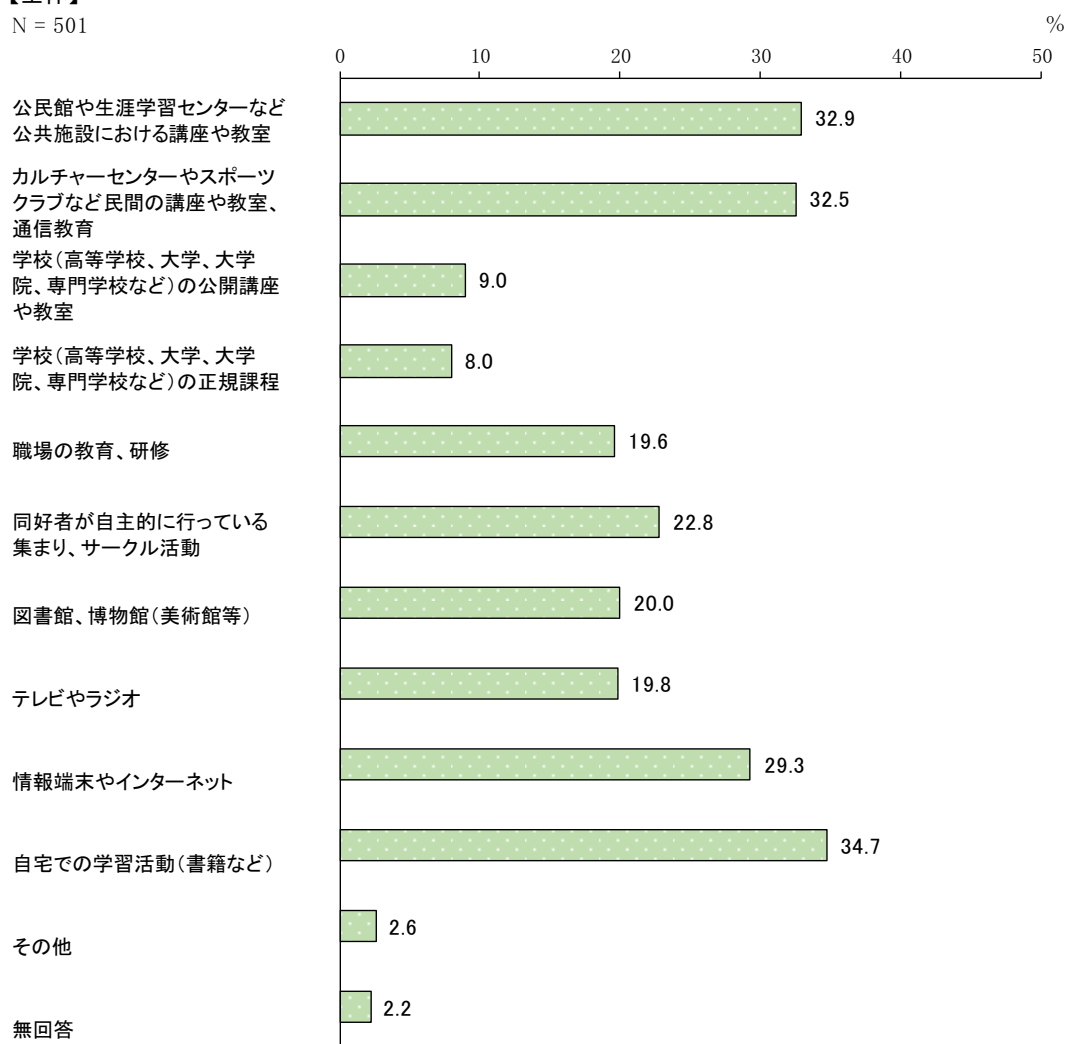
⑤ 生涯学習に取り組んでいる方法・形態

生涯学習に取り組んでいる方法・形態をみると、「自宅での学習活動（書籍など）」の割合が34.7%と最も高く、次いで「公民館や生涯学習センターなど公共施設における講座や教室」の割合が32.9%、「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育」の割合が32.5%となっています。

生涯学習に取り組んでいる方法・形態（生涯学習に取り組んでいる人の回答結果）

【全体】

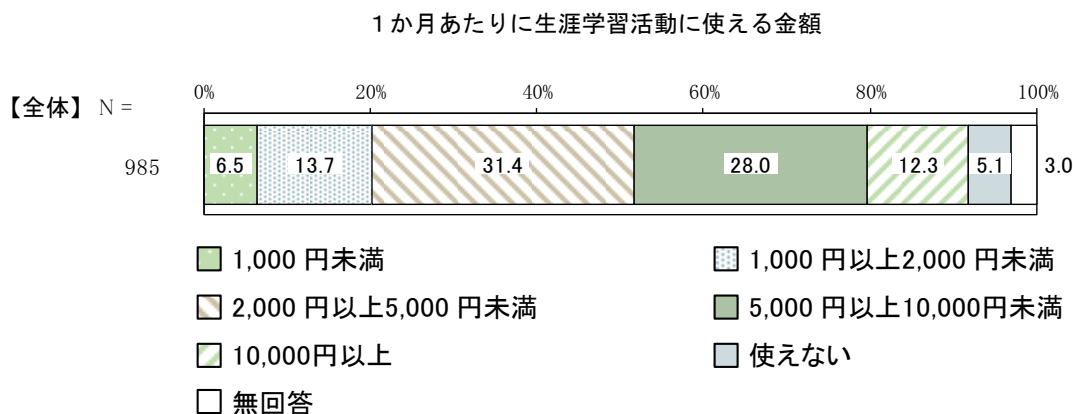
N = 501



資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

⑥ 1か月あたりに生涯学習活動に使える金額

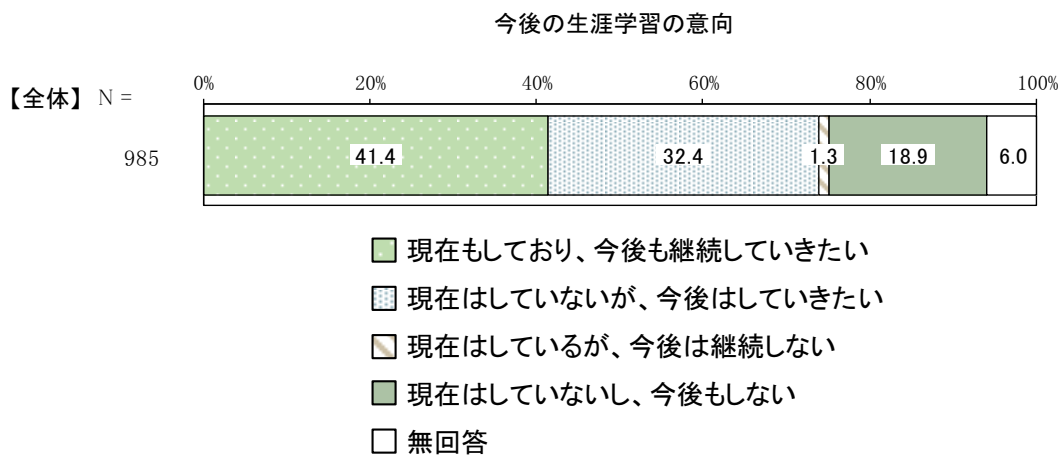
1か月あたりに生涯学習活動に使える金額は、「2,000円以上 5,000円未満」の割合が31.4%と最も高く、次いで「5,000円以上 10,000円未満」の割合が28.0%、「1,000円以上 2,000円未満」の割合が13.7%となっています。



資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

⑦ 今後の生涯学習の意向

今後の生涯学習の意向をみると、「現在もしており、今後も継続していきたい」の割合が41.4%と最も高く、次いで「現在はしていないが、今後はしていきたい」の割合が32.4%、「現在はしていないし、今後もしない」の割合が18.9%となっています。



資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

⑧ 今後の生涯学習の意向（学習したい内容）

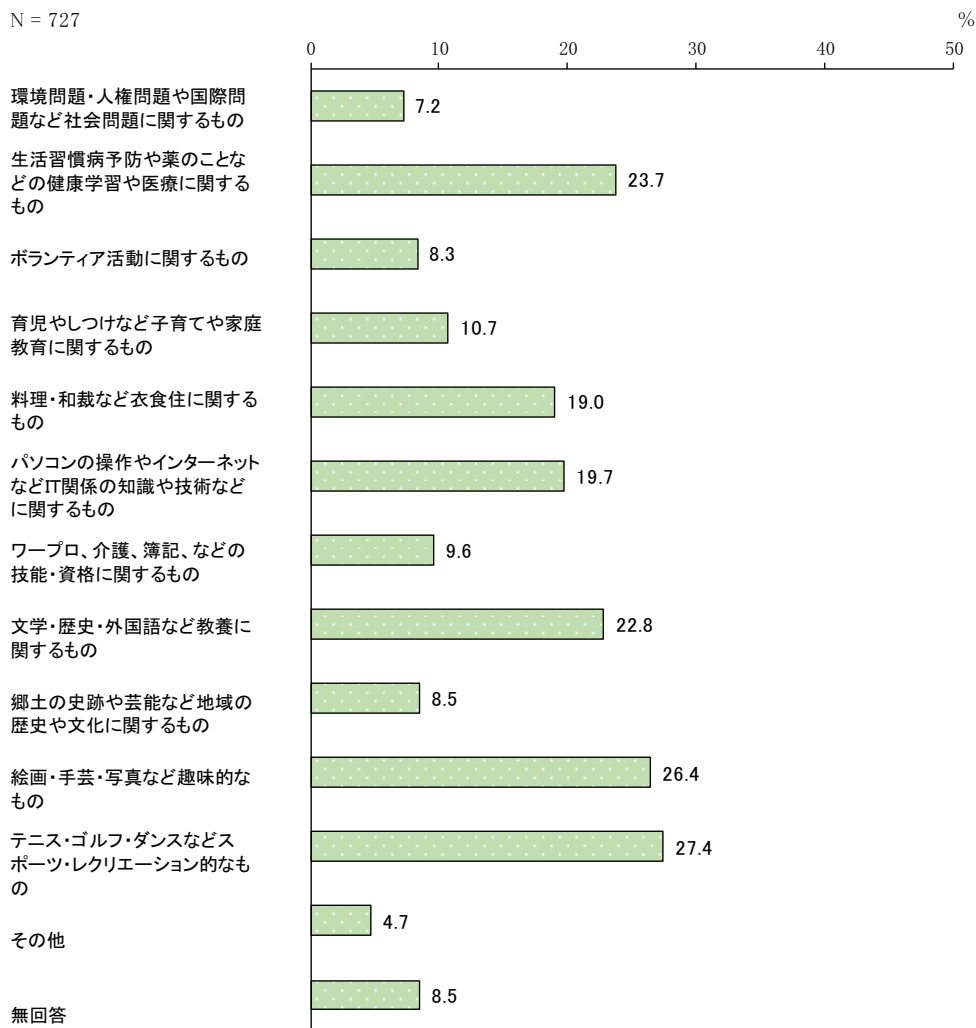
今後学習したい生涯学習の内容として「テニス・ゴルフ・ダンスなどスポーツ・レクリエーション的なもの」の割合が 27.4%と最も高く、次いで「絵画・手芸・写真など趣味的なもの」の割合が 26.4%、「生活習慣病予防や薬のことなどの健康学習や医療に関するもの」の割合が 23.7%となっています。

性・年齢別でみると、女性の 30 歳代で「料理・和裁など衣食住に関するもの」の割合が高く、男性の 40 歳代から 50 歳代で「文学・歴史・外国語など教養に関するもの」の割合が高く、年代を問わず男性で「パソコンの操作やインターネットなど IT 関係の知識や技術などに関するもの」の割合が高くなっています。

今後の生涯学習の意向（学習したい内容）
 （生涯学習に取り組んでいる人および生涯学習に取り組む意向がある人の回答結果）

【全体】

N = 727



資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

今後の生涯学習の意向（学習したい内容）
 （生涯学習に取り組んでいる人および生涯学習に取り組む意向がある人の回答結果）

【性・年齢別】

単位：％

区分	有効回答数（件）	環境問題・人権問題や国際問題など社会問題に関するもの	生活習慣病予防や薬のことなどの健康学習や医療に関するもの	ボランティア活動に関するもの	育児やしつけなど子育てや家庭教育に関するもの	料理・和裁など衣食住に関するもの	パソコンの操作やインターネットなどIT関係の知識や技術などに関するもの	ワープロ、介護、簿記、などの技能・資格に関するもの	文学・歴史・外国語など教養に関するもの	郷土の史跡や芸能など地域の歴史や文化に関するもの	絵画・手芸・写真など趣味的なもの	テニス・ゴルフ・ダンスなどスポーツ・レクリエーションなもの	その他	無回答
女性 10歳代	4	—	—	25.0	—	50.0	—	—	25.0	—	—	—	—	25.0
20歳代	31	3.2	19.4	3.2	32.3	29.0	25.8	16.1	22.6	3.2	25.8	25.8	—	6.5
30歳代	81	1.2	12.3	4.9	37.0	45.7	14.8	21.0	17.3	1.2	30.9	28.4	2.5	7.4
40歳代	102	5.9	17.6	7.8	13.7	23.5	14.7	14.7	22.5	5.9	28.4	37.3	3.9	11.8
50歳代	71	5.6	35.2	5.6	4.2	26.8	14.1	7.0	26.8	11.3	49.3	22.5	7.0	5.6
60歳代	80	6.3	31.3	11.3	5.0	18.8	10.0	2.5	25.0	11.3	36.3	21.3	2.5	10.0
70歳代	60	8.3	35.0	13.3	1.7	18.3	13.3	1.7	15.0	8.3	23.3	10.0	8.3	10.0
80歳以上	16	—	25.0	12.5	—	12.5	6.3	—	12.5	6.3	12.5	—	25.0	12.5
男性 10歳代	2	50.0	—	—	50.0	—	—	50.0	—	—	—	50.0	—	—
20歳代	15	13.3	33.3	—	13.3	6.7	33.3	13.3	13.3	6.7	13.3	33.3	—	20.0
30歳代	61	11.5	11.5	4.9	9.8	3.3	27.9	9.8	26.2	4.9	18.0	39.3	9.8	9.8
40歳代	51	11.8	25.5	5.9	7.8	13.7	21.6	15.7	31.4	7.8	11.8	35.3	2.0	3.9
50歳代	41	9.8	24.4	9.8	2.4	—	29.3	14.6	39.0	9.8	14.6	36.6	2.4	4.9
60歳代	46	15.2	19.6	10.9	—	10.9	28.3	4.3	17.4	19.6	21.7	21.7	8.7	10.9
70歳代	40	5.0	30.0	17.5	—	5.0	37.5	—	22.5	20.0	25.0	22.5	—	2.5
80歳以上	19	—	26.3	5.3	—	5.3	31.6	—	21.1	10.5	15.8	31.6	—	10.5

資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

⑨ 生涯学習に取り組みたい場所や形態

生涯学習に取り組みたい場所や形態は、「公民館や生涯学習センターなど公的な機関における講座や教室」の割合が46.1%と最も高く、次いで「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育」の割合が40.9%、「自宅での学習活動（書籍など）」の割合が33.6%となっています。

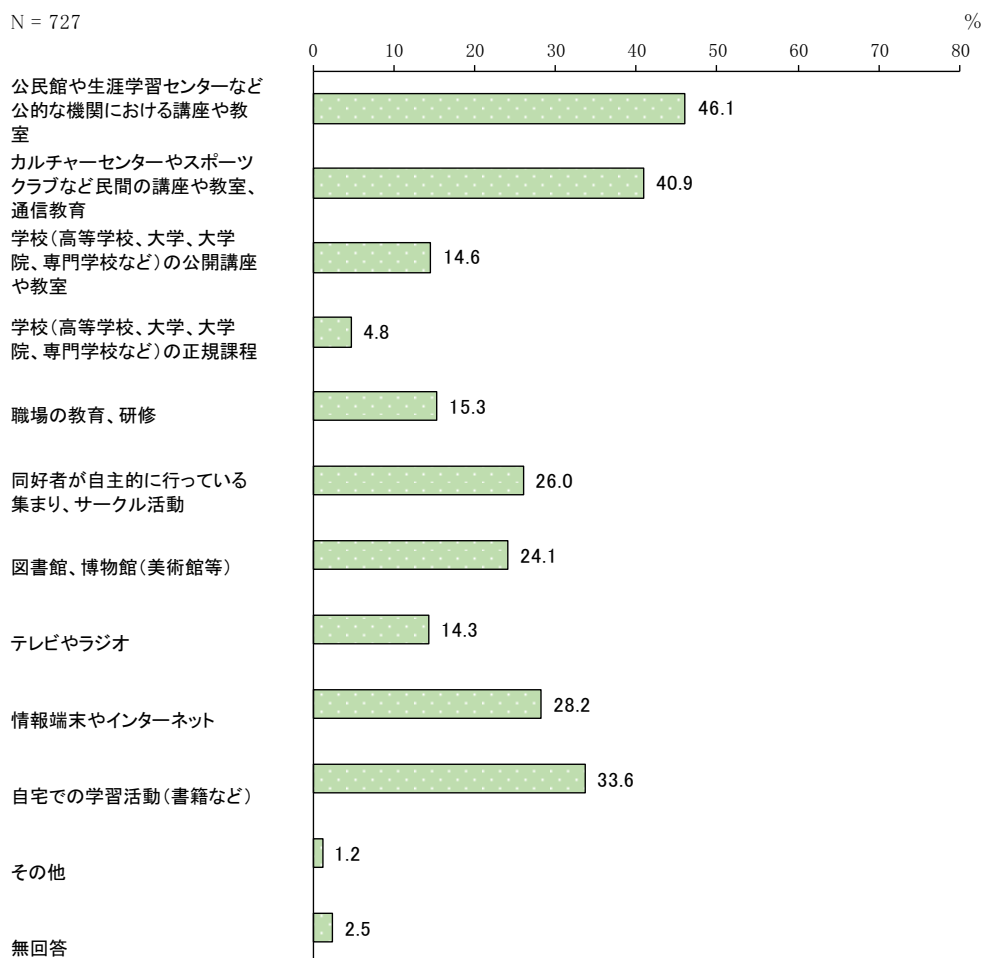
今後の学習活動の意向別でみると、現在もしており、今後も継続していききたいと答えた人で「職場の教育、研修」「同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動」「情報端末やインターネット」の割合が高くなっています。

また、現在はしていないが、今後はしていきたいと答えた人で「公民館や生涯学習センターなど公的な機関における講座や教室」「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育」の割合が高くなっています。

生涯学習に取り組みたい場所や形態
(生涯学習に取り組んでいる人および生涯学習をする意向がある人の回答結果)

【全体】

N = 727



資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

生涯学習に取り組みたい場所や形態
 (生涯学習に取り組んでいる人および生涯学習をする意向がある人の回答結果)

【今後の学習活動の意向別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	公民館や生涯学習センターなど公的な機関における講座や教室	カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育	学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の公開講座や教室	学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の正規課程	職場の教育、研修	同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動	図書館、博物館(美術館等)	テレビやラジオ	情報端末やインターネット	自宅での学習活動(書籍など)	その他	無回答
現在もしており、今後も継続していきたい	408	43.6	36.0	14.5	4.7	17.9	29.2	24.0	15.4	31.9	35.3	1.7	2.2
現在はしていないが、今後はしていきたい	319	49.2	47.0	14.7	5.0	11.9	21.9	24.1	12.9	23.5	31.3	0.6	2.8
現在はしているが、今後は継続しない	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
現在はしていないし、今後はもしない	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

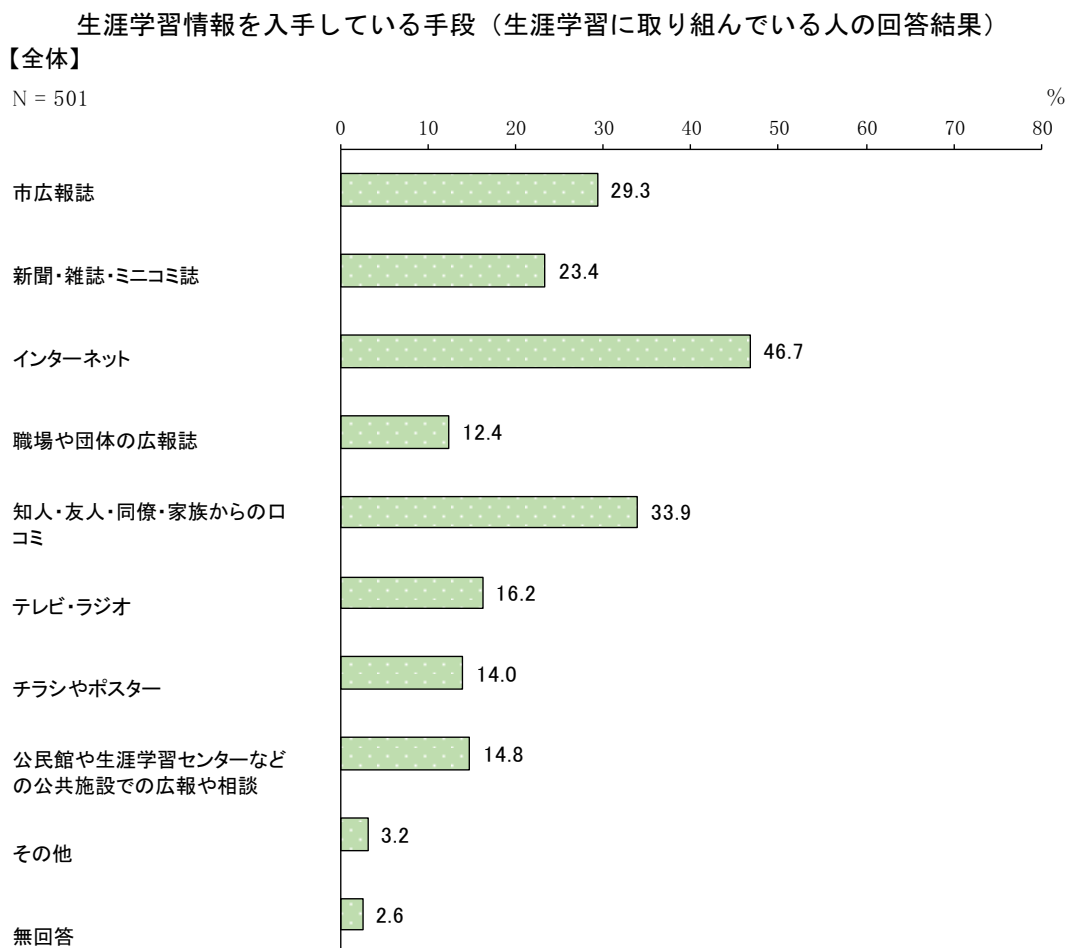
資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

⑩ 生涯学習情報を入手している手段

生涯学習情報を入手している手段をみると、「インターネット」の割合が46.7%と最も高く、次いで「知人・友人・同僚・家族からの口コミ」の割合が33.9%、「市広報誌」の割合が29.3%となっています。

年齢別でみると、年齢が高くなるにつれて「インターネット」の割合が低くなる傾向がみられます。

また、「知人・友人・同僚・家族からの口コミ」の割合が各年代共通して高くなっています。



資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

生涯学習情報の入手手段（生涯学習に取り組んでいる人の回答結果）

【年齢別】

単位：％

区分	有効回答数 (件)	市広報誌	新聞・雑誌・ミニコミ誌	インターネット	職場や団体の広報誌	知人・友人・同僚・家族からの口コミ	テレビ・ラジオ	チラシやポスター	公民館や生涯学習センターなどの公共施設での広報や相談	その他	無回答
10歳代	5	20.0	—	40.0	20.0	—	20.0	—	20.0	20.0	—
20歳代	37	13.5	5.4	86.5	13.5	27.0	10.8	10.8	2.7	2.7	—
30歳代	83	15.7	14.5	72.3	25.3	24.1	12.0	12.0	7.2	2.4	—
40歳代	97	26.8	13.4	61.9	14.4	32.0	15.5	11.3	7.2	4.1	1.0
50歳代	68	30.9	27.9	57.4	13.2	30.9	11.8	16.2	7.4	1.5	2.9
60歳代	83	38.6	34.9	32.5	8.4	38.6	15.7	22.9	20.5	2.4	1.2
70歳代	89	43.8	34.8	13.5	5.6	42.7	24.7	14.6	34.8	1.1	5.6
80歳以上	36	25.0	27.8	2.8	—	44.4	22.2	5.6	16.7	11.1	11.1

資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

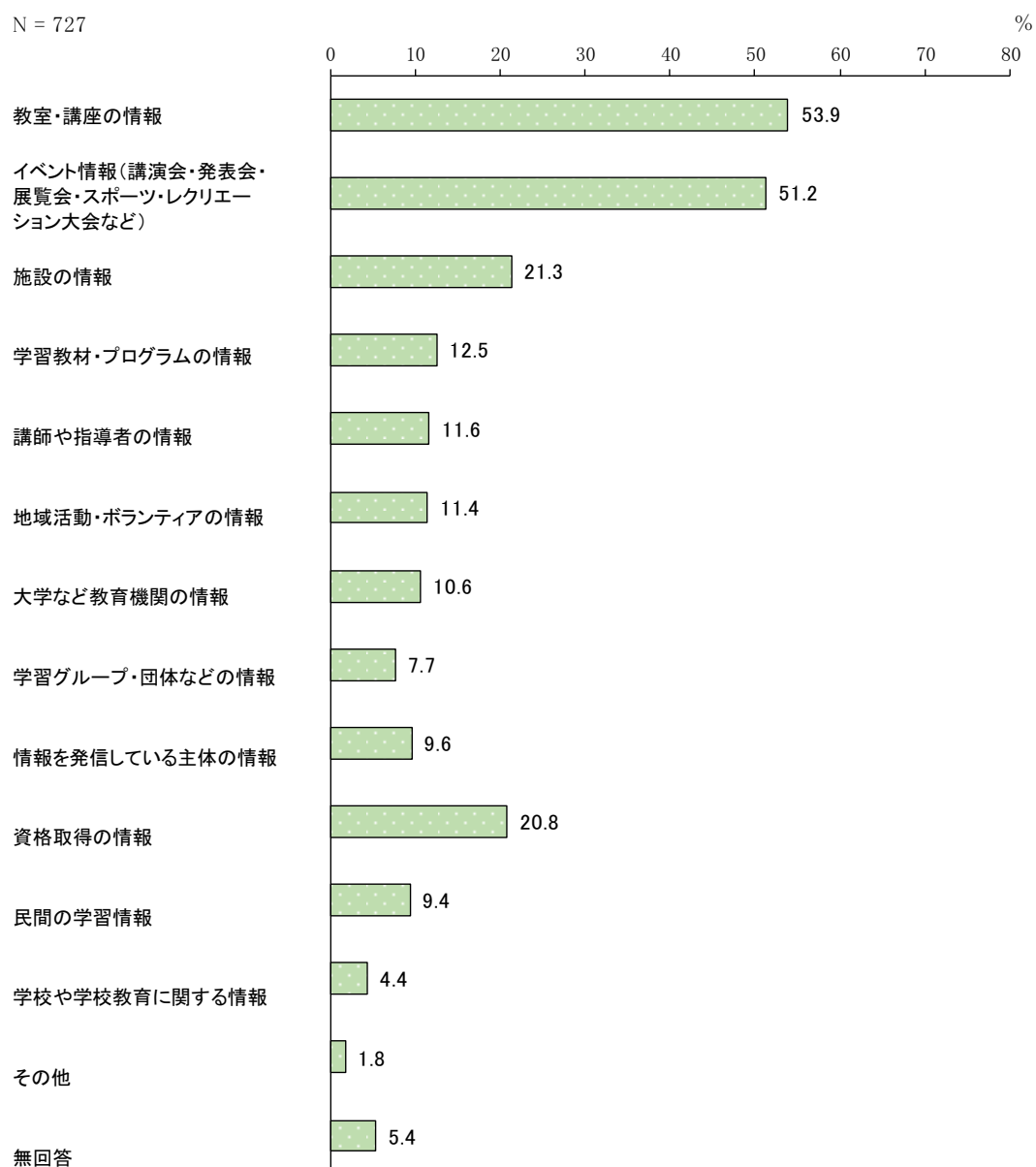
⑪ 生涯学習について必要な情報の種類

生涯学習に関する必要な情報としては、「教室・講座の情報」の割合が53.9%と最も高く、次いで「イベント情報（講演会・発表会・展覧会・スポーツ・レクリエーション大会など）」の割合が51.2%、「施設の情報」の割合が21.3%となっています。

生涯学習について必要な情報の種類
(生涯学習に取り組んでいる人および生涯学習をする意向がある人の回答結果)

【全体】

N = 727



資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

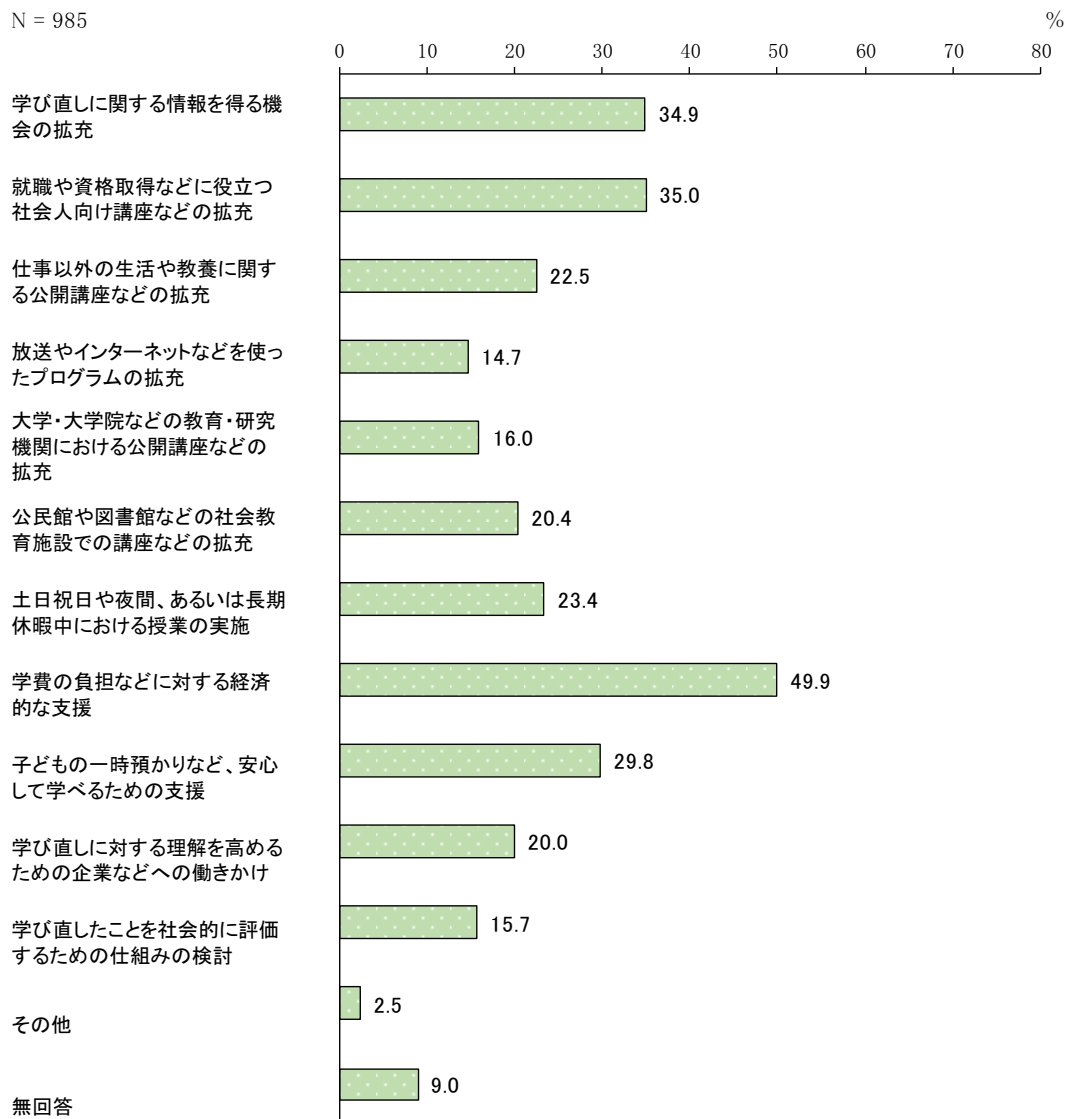
⑫ 学校を卒業した人が大学などの教育機関で学びやすくするために必要な取組

学校を卒業した人が大学などの教育機関で学びやすくするために必要な取組としては、「学費の負担などに対する経済的な支援」の割合が49.9%と最も高く、次いで「就職や資格取得などに役立つ社会人向け講座などの拡充」の割合が35.0%、「学び直しに関する情報を得る機会の拡充」の割合が34.9%となっています。

学校を卒業した人が大学などの教育機関で学びやすくするために必要な取組

【全体】

N = 985

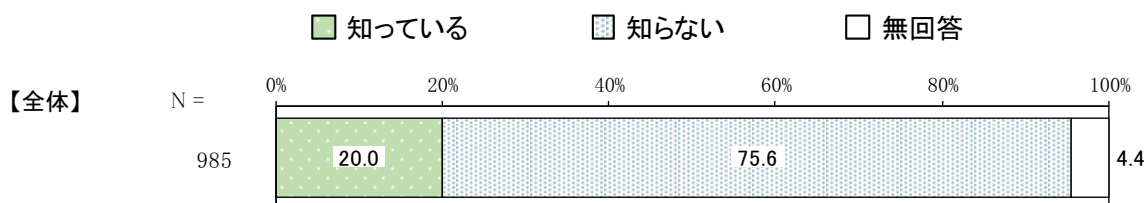


資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

⑬ 市が実施している大学との連携した公開講座の認知度

市が実施している大学との連携した公開講座の認知度については、「知っている」の割合が20.0%、「知らない」の割合が75.6%となっています。

市が実施している大学との連携した公開講座の認知度

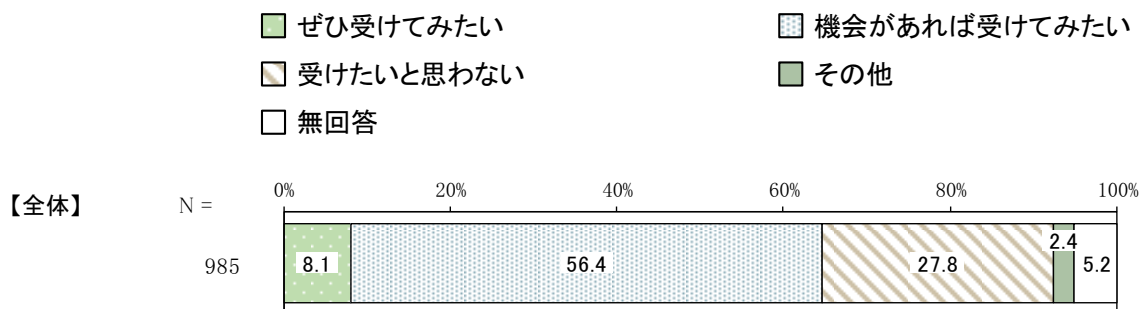


資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

⑭ 大学などの公開講座の受講意向

大学などの公開講座の受講意向については、「機会があれば受けてみたい」の割合が56.4%と最も高く、次いで「受けたいと思わない」の割合が27.8%となっています。

大学などの公開講座の受講意向



資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

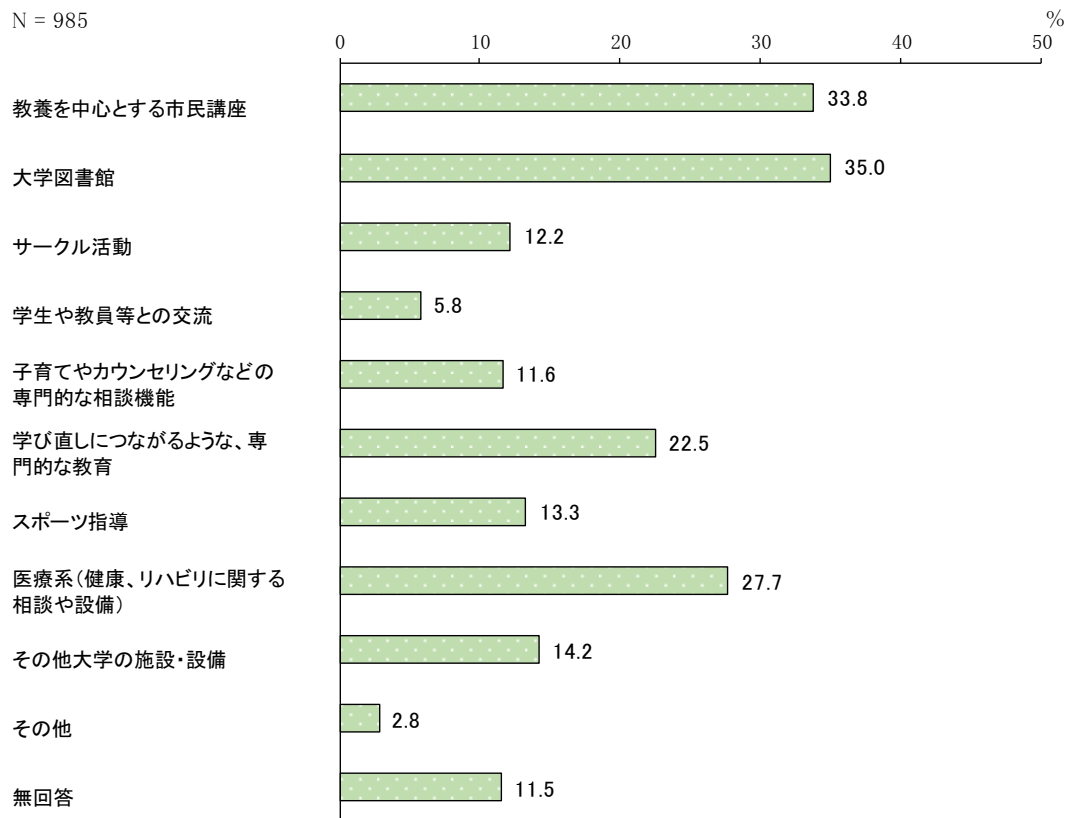
⑮ 生涯学習をする上で、大学で活用したい機能

生涯学習をする上で、大学で活用したい機能は、「大学図書館」の割合が35.0%と最も高く、次いで「教養を中心とする市民講座」の割合が33.8%、「医療系（健康、リハビリに関する相談や設備）」の割合が27.7%となっています。

生涯学習をする上で、大学で活用したい機能

【全体】

N = 985



資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

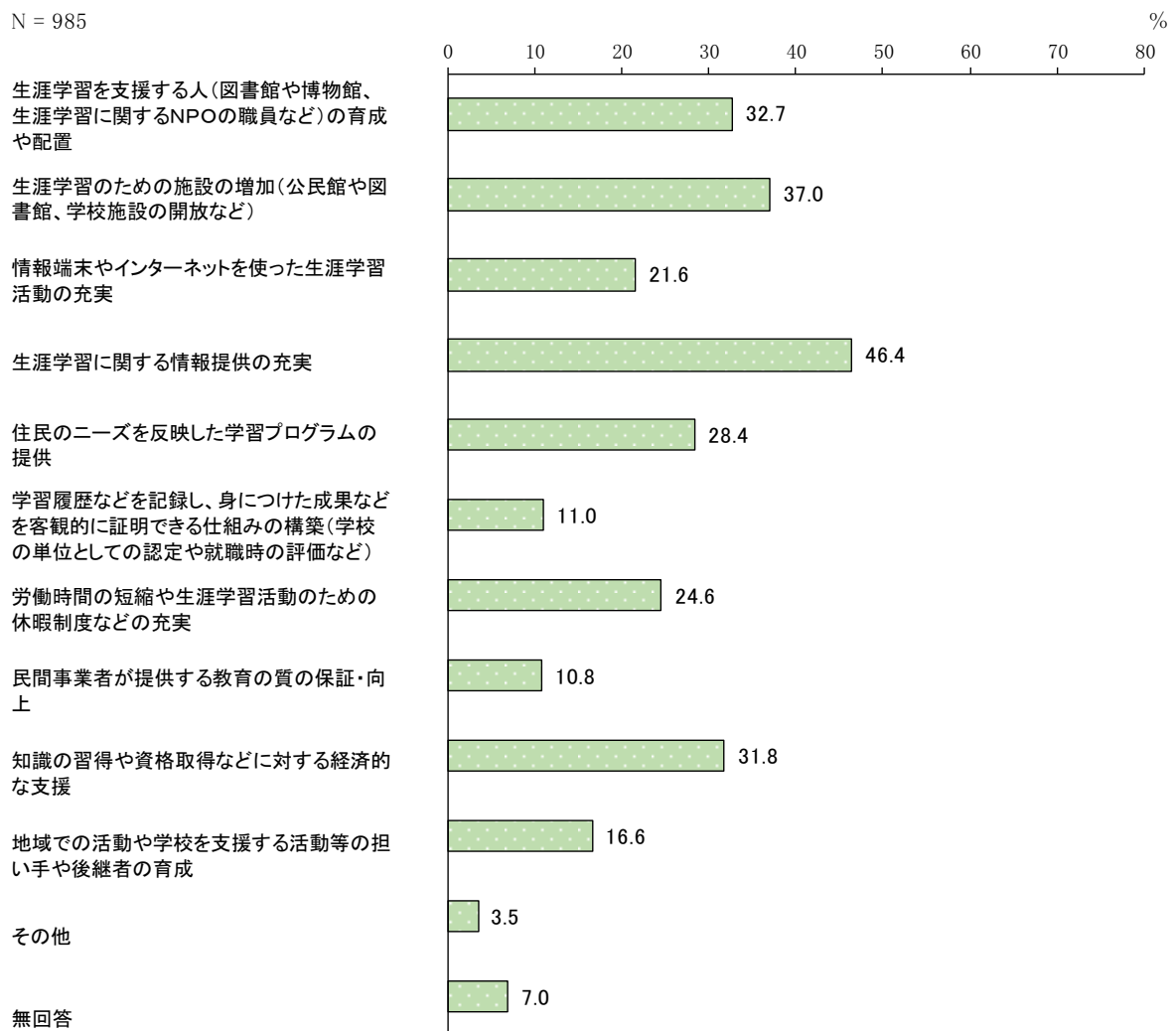
⑩ 生涯学習をもっと盛んにしていくため力を入れるべきだと思うこと

生涯学習をもっと盛んにしていくため力を入れるべきだと思うことについて、「生涯学習に関する情報提供の充実」の割合が46.4%と最も高く、次いで「生涯学習のための施設の増加（公民館や図書館、学校施設の開放など）」の割合が37.0%、「生涯学習を支援する人（図書館や博物館、生涯学習に関するNPOの職員など）の育成や配置」の割合が32.7%となっています。

生涯学習をもっと盛んにしていくため力を入れるべきだと思うこと

【全体】

N = 985



資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

⑰ 生涯学習活動に取り組んでいない理由

生涯学習活動に取り組んでいない理由をみると、「仕事や家事が忙しく、時間がないから」の割合が46.0%と最も高く、次いで「きっかけがないから」の割合が34.6%、「身近に介護や子育てなどで、自分を必要とする人がいるから」の割合が20.0%となっています。

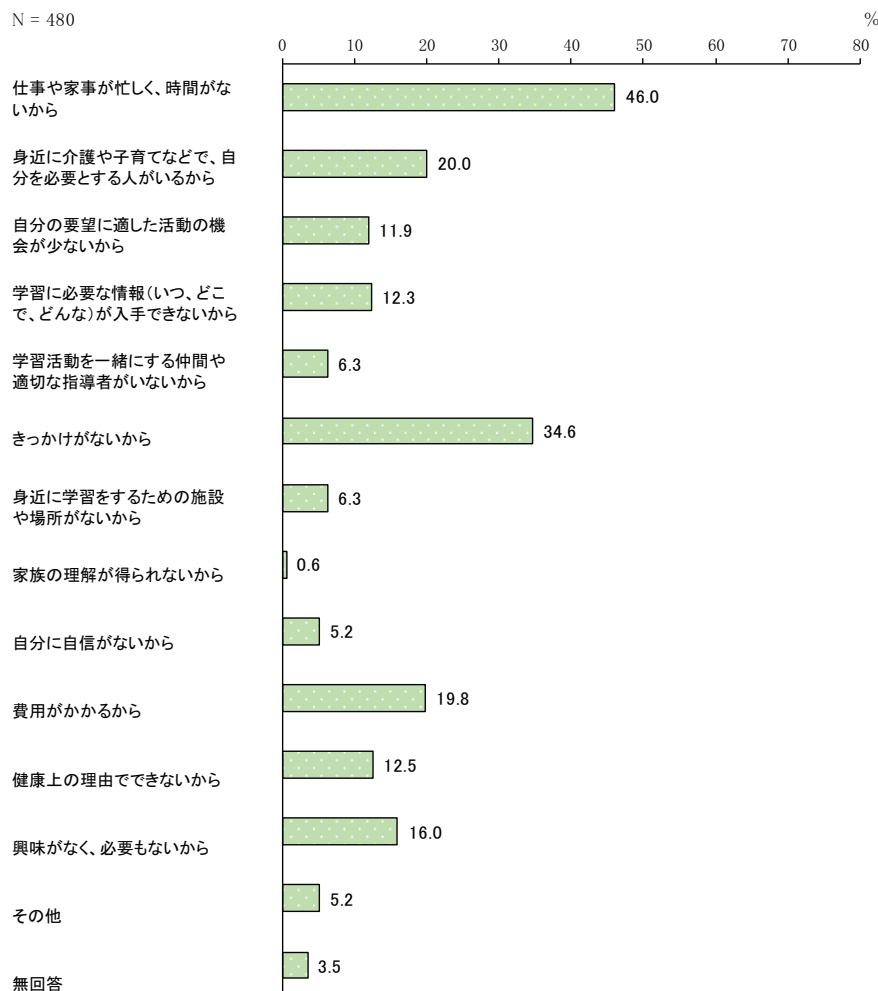
性年齢別にみると、「仕事や家事が忙しく、時間がないから」の割合が、女性の30歳代から50歳代、男性の30歳代から50歳代で高くなっています。

また、「身近に介護や子育てなどで、自分を必要とする人がいるから」の割合が女性の30歳代、60歳代で高くなっています。「きっかけがないから」の割合が、男性の40歳代から60歳代で高くなっています。

生涯学習活動に取り組んでいない理由（生涯学習に取り組んでいない人の回答結果）

【全体】

N = 480



資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

生涯学習活動に取り組んでいない理由（生涯学習に取り組んでいない人の回答結果）

【性・年齢別】

単位：％

区分	有効回答数（件）	仕事や家事が忙しく、時間がないから	身近に介護や子育てなどで、自分を必要とする人がいるから	自分の要望に適した活動の機会が少ないから	自分の要望に適した活動の機会が少ないから	学習に必要な情報（いつ、どこで、どんな）が入手できないから	学習活動と一緒にする仲間や適切な指導者がいないから	きっかけがないから	身近に学習をするための施設や場所がないから	家族の理解が得られないから	自分に自信がないから	費用がかかるから	健康上の理由でできないから	興味がなく、必要もないから	その他	無回答
女性 10歳代	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—
20歳代	8	50.0	37.5	12.5	—	—	37.5	12.5	—	—	12.5	—	—	—	—	—
30歳代	62	83.9	37.1	1.6	12.9	4.8	29.0	6.5	—	4.8	30.6	—	8.1	4.8	1.6	
40歳代	59	78.0	27.1	10.2	11.9	11.9	32.2	8.5	1.7	1.7	33.9	6.8	8.5	—	1.7	
50歳代	43	65.1	20.9	18.6	18.6	11.6	30.2	7.0	—	4.7	27.9	7.0	9.3	4.7	4.7	
60歳代	42	38.1	33.3	7.1	19.0	7.1	35.7	14.3	—	4.8	21.4	16.7	14.3	4.8	4.8	
70歳代	27	11.1	25.9	22.2	7.4	7.4	22.2	7.4	—	18.5	11.1	37.0	11.1	11.1	3.7	
80歳以上	24	—	8.3	4.2	—	—	4.2	—	—	8.3	4.2	45.8	16.7	12.5	16.7	
男性 10歳代	1	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20歳代	7	85.7	—	—	—	—	42.9	—	—	14.3	—	—	14.3	14.3	—	
30歳代	29	41.4	17.2	10.3	6.9	3.4	41.4	3.4	3.4	—	41.4	—	13.8	3.4	—	
40歳代	37	59.5	8.1	8.1	16.2	8.1	59.5	—	—	—	16.2	—	13.5	—	2.7	
50歳代	32	50.0	18.8	15.6	6.3	—	50.0	9.4	—	—	9.4	3.1	31.3	3.1	—	
60歳代	38	23.7	13.2	28.9	23.7	2.6	52.6	5.3	—	5.3	10.5	15.8	10.5	2.6	5.3	
70歳代	38	5.3	2.6	10.5	7.9	—	28.9	2.6	—	10.5	10.5	28.9	39.5	10.5	2.6	
80歳以上	23	—	—	21.7	17.4	17.4	26.1	8.7	—	8.7	—	26.1	39.1	8.7	8.7	

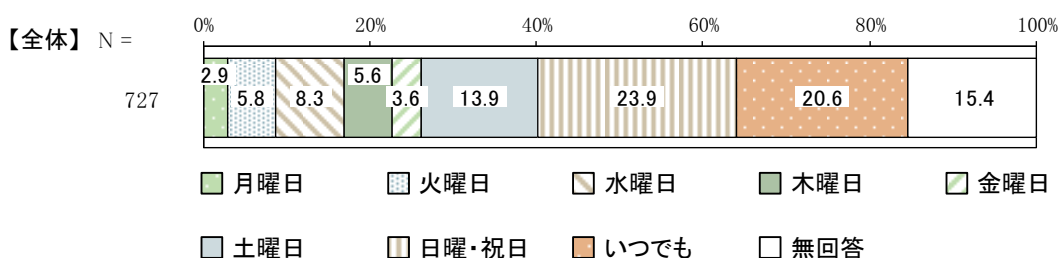
資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

⑱ 生涯学習活動に参加しやすい曜日

生涯学習活動に参加しやすい曜日を見ると、「日曜・祝日」の割合が23.9%と最も高く、次いで「いつでも」の割合が20.6%、「土曜日」の割合が13.9%となっています。

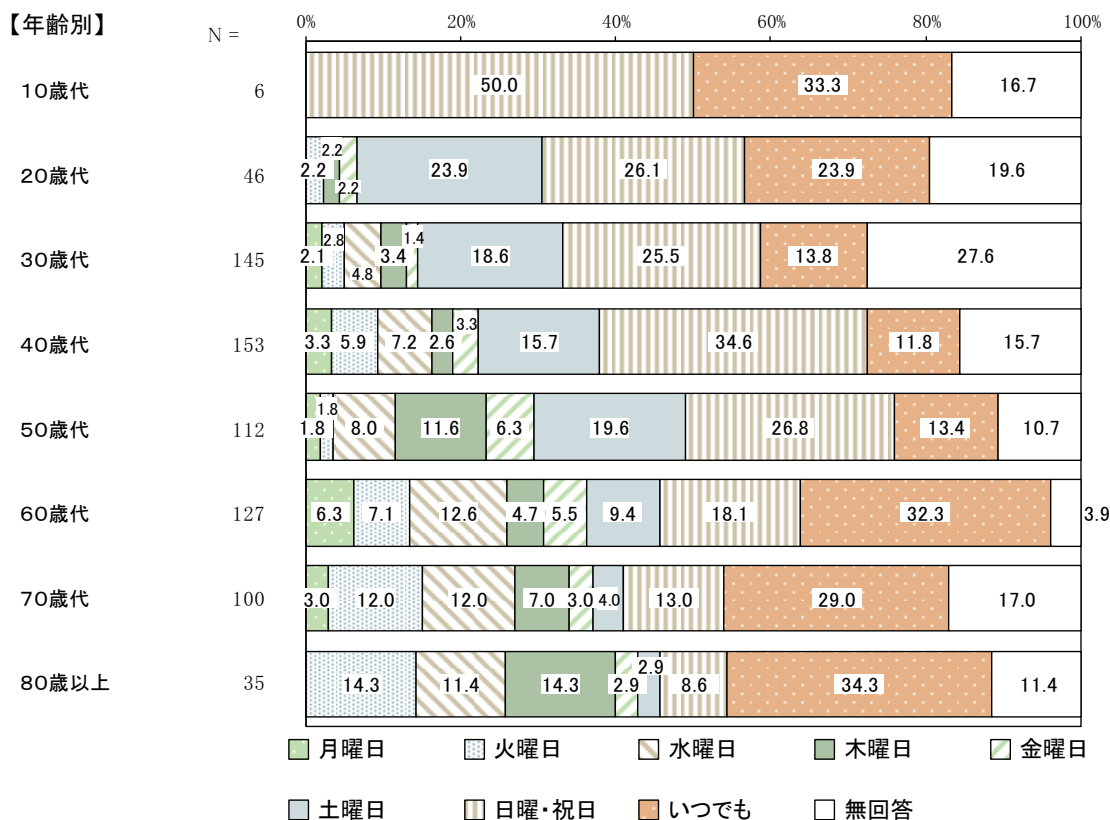
年齢別で見ると、60歳代以上で「いつでも」の割合が高くなっています。

生涯学習活動に参加しやすい曜日
(生涯学習に取り組んでいる人および生涯学習をする意向がある人の回答結果)



資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

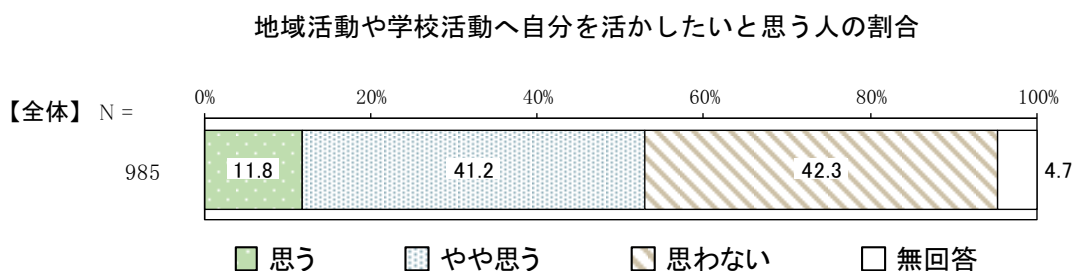
生涯学習活動に参加しやすい曜日
(生涯学習に取り組んでいる人および生涯学習をする意向がある人の回答結果)



資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

⑱ 地域活動や学校活動へ自分の能力を活かしたいと思う人の割合

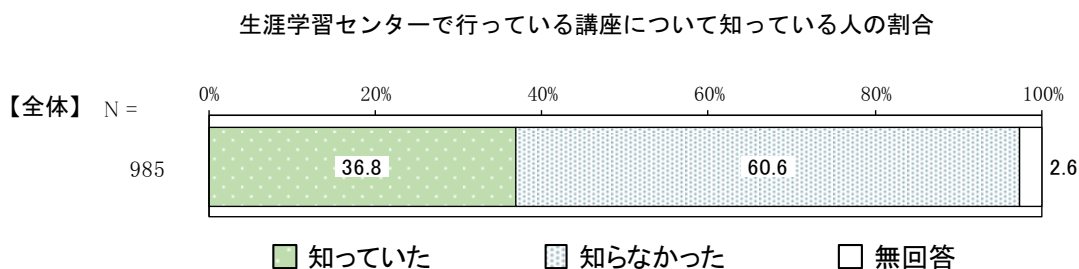
地域活動や学校活動へ自分の能力を活かしたいと、“思う（「やや思う」と「思う」を合わせた）”の割合が53.0%、「思わない」の割合が42.3%となっています。



資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

⑳ 生涯学習センターで行っている講座について知っている人の割合

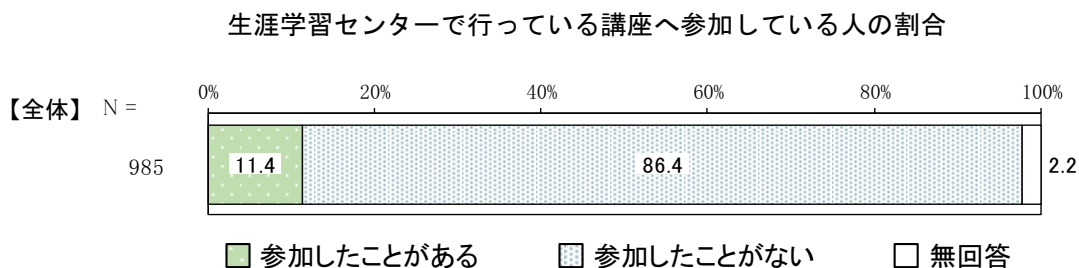
生涯学習センターで行っている講座についての認知度をみると、「知っていた」の割合が36.8%、「知らなかった」の割合が60.6%となっています。



資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

㉑ 生涯学習センターで行っている講座へ参加している人の割合

生涯学習センターにおける生涯学習の講座の参加状況をみると、「参加したことがある」の割合が11.4%、「参加したことがない」の割合が86.4%となっています。



資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

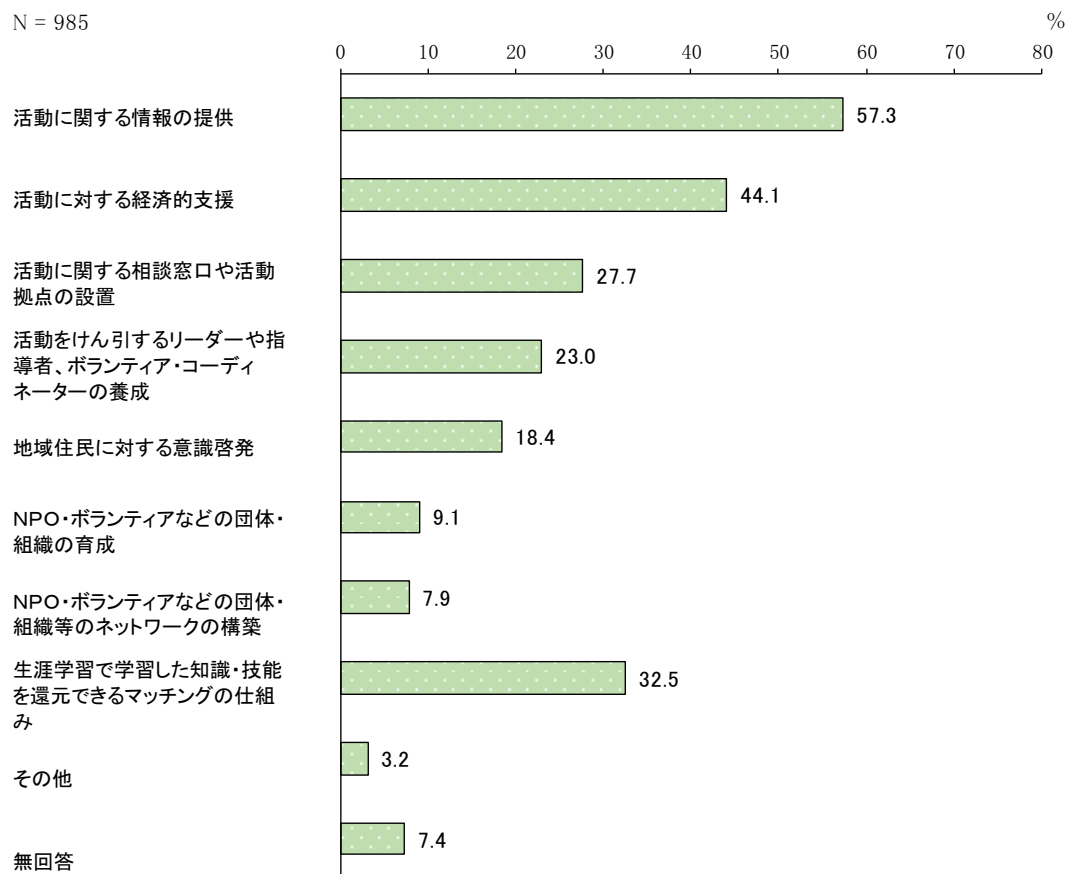
⑫ 生涯学習を通して身につけた知識・技能や経験を地域活動に活かしていくために必要なこと

生涯学習を通して身につけた知識・技能や経験を地域活動に活かしていくために必要なことをみると、「活動に関する情報の提供」の割合が57.3%と最も高く、次いで「活動に対する経済的支援」の割合が44.1%、「生涯学習で学習した知識・技能を還元できるマッチングの仕組み」の割合が32.5%となっています。

生涯学習を通して身につけた知識・技能や経験を地域活動に活かしていくために必要なこと

【全体】

N = 985



資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

【団体】

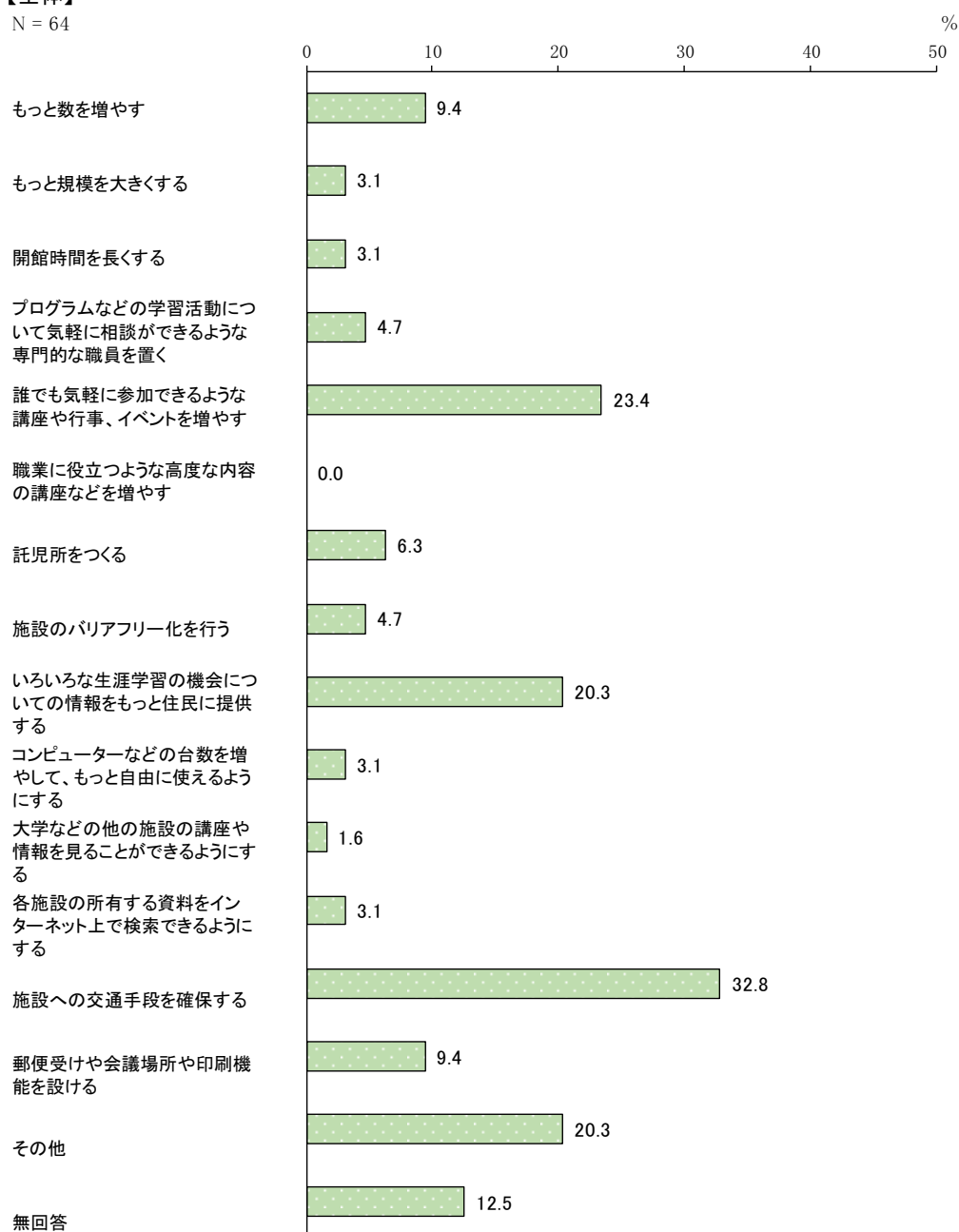
① 生涯学習関連施設について求めること

生涯学習関連施設について求めることは、「施設への交通手段を確保する」の割合が32.8%と最も高く、次いで「誰でも気軽に参加できるような講座や行事、イベントを増やす」の割合が23.4%、「いろいろな生涯学習の機会についての情報をもっと住民に提供する」の割合が20.3%となっています。

生涯学習関連施設について求めること

【全体】

N = 64



資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

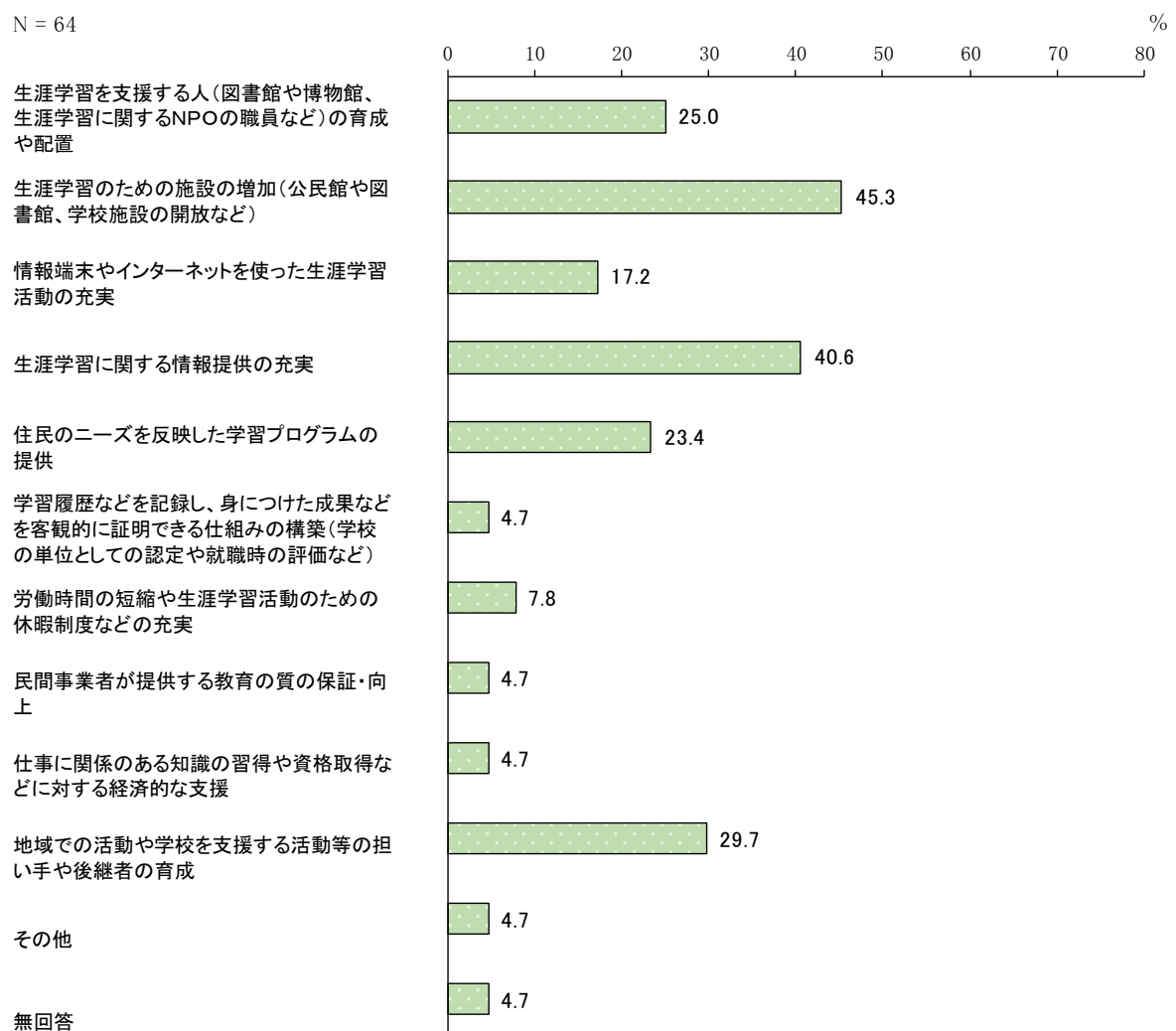
② 生涯学習をもっと盛んにしていくため力を入れるべきだと思うこと

生涯学習をもっと盛んにしていくため力を入れるべきだと思うことについて、「生涯学習のための施設の増加（公民館や図書館、学校施設の開放など）」の割合が45.3%と最も高く、次いで「生涯学習に関する情報提供の充実」の割合が40.6%、「地域での活動や学校を支援する活動等の担い手や後継者の育成」の割合が29.7%となっています。

生涯学習をもっと盛んにしていくため力を入れるべきだと思うこと

【全体】

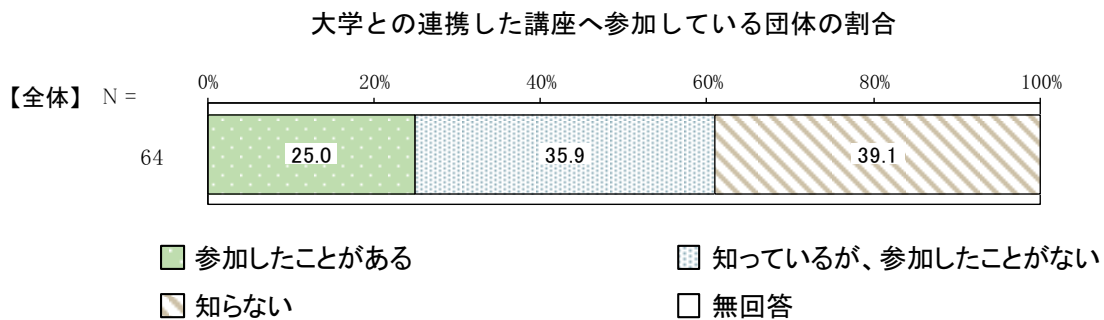
N = 64



資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

③ 大学との連携した講座へ参加している団体の割合

大学との連携した講座へ参加している団体について、「知らない」の割合が39.1%と最も高く、次いで「知っているが、参加したことがない」の割合が35.9%、「参加したことがある」の割合が25.0%となっています。



資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

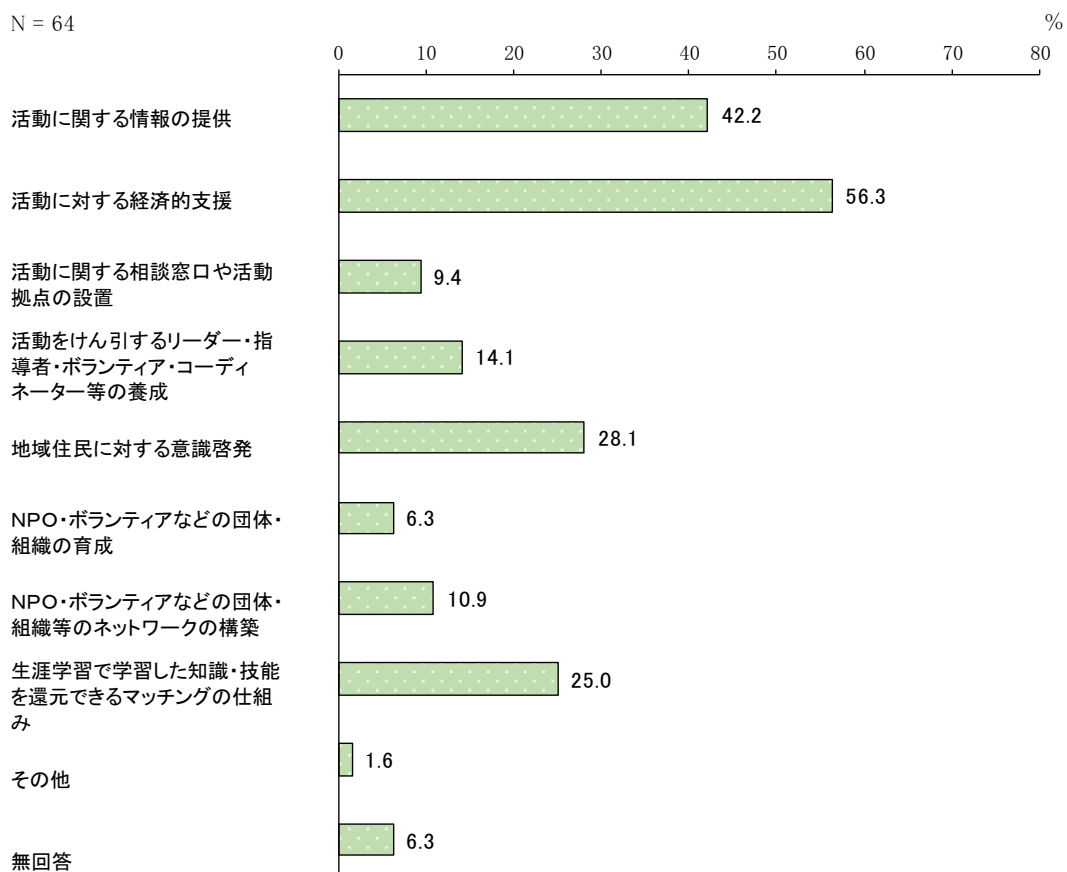
④ 生涯学習を通して身につけた知識・技能や経験を地域活動に活かしていくために必要なこと

生涯学習を通して身につけた知識・技能や経験を地域活動に活かしていくために必要なことは、「活動に対する経済的支援」の割合が56.3%と最も高く、次いで「活動に関する情報の提供」の割合が42.2%、「地域住民に対する意識啓発」の割合が28.1%となっています。

生涯学習を通して身につけた知識・技能や経験を地域活動に活かしていくために必要なこと

【全体】

N = 64



資料：茨木市生涯学習に関するアンケート調査結果

【ヒアリング調査の主な結果】

アンケート調査（団体）に回答があった 64 団体のうち、自由意見に回答があった 7 団体にヒアリング調査を実施しました。主な意見は以下の通りです。

項目	主な意見
情報提供について	<ul style="list-style-type: none"> ・団体についての紹介を広報に載せたときに入りたいという問い合わせがあった。広報の影響力は大きい。 ・団体についての紹介をきらめきのパンフレットに載せたときに特に反応はなかった。 ・SNS を活用して双方向のコミュニケーションを使って啓発することが必要。 ・若い世代では紙による情報は不要。スマホで見られるもの、QRコードが必要となっている。 ・情報の取得について、会員でホームページを開く人はまずいない。障害者だけでなく、高齢者はホームページは見ない。紙媒体でないと周知できない。 ・イベント等の周知については、自治会に加入している人には配布できているが、加入していない人には情報が届いていない。 ・講師を探したいときにこういう人がいるという情報があるとよい。
団体等との連携について	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな団体が多様な生涯学習の活動をしているので、団体同士の連携、コラボレーションができればよい。 ・大学の文化サークル等との連携ができればよい。
障害者への理解について	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習センターの講座は、障害者にとって、学習ペースなどで心理的障壁があり、参加しにくいと感じる。
地域交流の促進について	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの活動を発表する場を地元の祭り等の行事とつなげることで、親が参加する仕組みをつくる。地域の交流のきっかけづくりになるように取組を進めている。 ・ひきこもりの人たちが地域の行事に参加するきっかけづくりが必要。 ・シニア世代の経験を若い世代に伝えていくことが重要。 ・学校を核とした地域の連携では、子育て世代と高齢者世代の中間の世代である青少年健全育成運動協議会等の組織が中心となってもらえればと思う。
生涯学習センターの利用について	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習センターの講座受講後のフォロー（ステップアップのため次の講座を紹介する等）が必要。 ・生涯学習センターの利用者が固定化している。 ・生涯学習センターの講座であれば、夏休み等に単発の講座などがあればよい。まず、生涯学習センターに1回来てもらうような仕かけが必要。 ・生涯学習センターなど他の公共施設に行くのにも交通手段がない人が増えている。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自然のなかで学ぶ機会が必要。 ・就業者に対し企業等が兼業を認めていくことが、学び直しや地域活動の活性化につながる。

前ページのヒアリング調査から、市の生涯学習を推進するための課題を明確化するため、ヒアリング調査の意見に加え、生涯学習をめぐる社会動向や国の動向、市の生涯学習をめぐる動向や現状をふまえてSWOT分析を行いました。

SWOT分析によるヒアリング調査の分析結果は、

○ 市民へのライフステージに応じた情報提供

(S-①、⑦、W-①、②、O-①、T-③)

○ 公民館活動を中心とした地域の活性化の促進

(S-②、W-①、O-②、③、④、⑥、T-③)

○ 生涯学習センターきらめきの利用促進

(S-④、⑧、W-③、⑤、O-③、⑦、⑧、T-①)

※特に関連がある内容について()に記載

※分析手法として、弱みや脅威に対し、強みや機会に対応していくよう分析している

が課題としてあがっています。

SWOT分析によるヒアリング調査の分析

強み (Strengths)	弱み (Weaknesses)
<p>[主なヒアリング結果]</p> <p>①団体についての情報の発信について、紹介を広報に載せたときに入りたいという問い合わせがあった。広報の影響力は大きい。</p> <p>②公民館においては、子どもの活動と祭り等の行事を繋げることで、地域交流のきっかけとなるような取組を進めている地域もある。</p> <p>③さまざまな団体が多様な生涯学習活動をしている。</p> <p>[市の動向、現状]</p> <p>④生涯学習センターきらめきにより、きらめき主催の講座や出前講座を実施。</p> <p>⑤短期大学を含め6つの大学がある。</p> <p>⑥各小学校区に設置されている公民館・コミュニティセンター等を中心とした活動が活発に行われている。</p> <p>⑦生涯学習情報誌「NextStage」の提供。</p> <p>⑧生涯学習に取り組んでいる市民が多い。</p>	<p>[主なヒアリング結果]</p> <p>①イベント等の周知については、自治会に加入している人には配布できているが、加入していない人には情報が届いていない。</p> <p>②情報発信について、きらめきの情報誌に載せたときに特に反応はなかった。</p> <p>③生涯学習センターについて、利用者が固定化しているように感じる。</p> <p>[市の動向、現状]</p> <p>④生涯学習に関する情報提供を充実して欲しいという意見が多い。(アンケート)</p> <p>⑤生涯学習センターの講座について知らない人が多い。(アンケート)</p>
機会 (Opportunities)	脅威 (Threats)
<p>[主なヒアリング結果]</p> <p>①SNSを活用して双方向のコミュニケーションを使って啓発することが必要。</p> <p>②就業者に対し企業等が兼業を認めていくことが、学び直しや地域活動の活性化につながる。</p> <p>[社会動向、国の動向]</p> <p>③「人生100年時代」の到来。</p> <p>④働き方改革による余暇時間の増加。</p> <p>⑤人工知能(AI)やIoTの進展等の急速な技術革新。</p> <p>⑥学び直しのニーズの高まり。</p> <p>⑦インクルーシブ教育の推進。</p> <p>⑧多文化共生社会の推進。</p>	<p>[主なヒアリング結果]</p> <p>①生涯学習センターなど他の公共施設に行くのにも交通手段がない人が増えている。</p> <p>[社会動向、市の動向]</p> <p>②茨木市では、平成31年(2019年)をピークに総人口が減少することが予測されている。(茨木市総合計画)</p> <p>③個人の価値観やライフスタイルの多様化。</p>

※SWOT分析とは、意思決定を必要としている組織や企業、個人などにおいて、外部環境や内部環境を強み(Strengths)、弱み(Weaknesses)、機会(Opportunities)、脅威(Threats)の4つのカテゴリーで要因分析し、環境の変化に対応した経営資源の最適活用等、経営戦略を練る手法です。



第3章

茨木市の生涯学習の課題及び今後の検討事項

生涯学習をめぐる課題及び今後の検討事項

(1) 学習分野に応じた取組

茨木市の特徴	<ul style="list-style-type: none">○ 生涯学習に取り組んでいる市民が多く、国の調査と比べて割合が高い。(アンケート調査)○ 仕事等に生かすための学習に取り組んでいる市民が多い。(アンケート調査)○ 本市には短期大学を含め6つの大学があり、高等教育機関が充実している。
課題	<ul style="list-style-type: none">○ 人生100年時代をみすえ、趣味の学びや交流を通じて市民だれもが人生を豊かにするための生涯学習をさらに推進する必要がある。○ 学校、民間団体、生涯学習施設間が相互に連携し、市民が生涯学習の資源を有効に活用できるようなネットワークをさらに構築することが必要である。○ 大学や企業等との連携を強化し、市民のニーズに沿った生涯学習の機会を提供していくことが必要である。

① 生涯学習に取り組んでいる市民は多く、多様な学習に取り組んでいる

平成30年(2018年)に実施した茨木市生涯学習に関するアンケート調査(以下、アンケート調査という。)では、市民が生涯学習に取り組んでいる内容として、「趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など)」(43.3%)が最も高く、次いで「健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など)」(40.9%)、「職業において必要な知識・技能(仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など)」(29.3%)の割合が高くなっています。^{※1}

国の調査と比較しても、生涯学習に取り組んでいる市民の割合は高くなっており、生涯学習に取り組んでいる市民が多いことがうかがえます。^{※2}

※1：16 ページ

※2：15 ページ

② 人生を豊かにするため、仕事等に生かすために生涯学習に取り組んでいる

生涯学習で身につけた知識や技能の活かし方については、「自分の人生がより豊かになっている」(50.7%)の回答が最も高く^{※3}、生涯学習に取り組んでいる目的についても、「その学習が好きであったり、人生を豊かにするため」の回答が各年代共通して高く(全体：54.5%)なっています。^{※4}

女性の30歳代、男性の20歳代から50歳代では、「現在の仕事や将来の就職・転職などに役立てるため」の割合が5割を超えており、仕事等に生かすための学習に取り組んでいる市民が多い現状が見られます。^{※5}

③ 今後、取り組みたい生涯学習の内容は性別やライフステージで異なる

今後、取り組みたい生涯学習の内容については、全体では、「スポーツ・レクリエーション的なもの」の割合が最も高く、30歳代の女性で「料理・和裁など衣食住に関するもの」の割合が、男性の40歳代から50歳代で「文学・歴史・外国語など教養に関するもの」の割合が、年代を問わず男性で「パソコンの操作やインターネットなどIT関係の知識や技術などに関するもの」の割合が高いなど、性別やライフステージによって市民の生涯学習のニーズは異なっています。^{※6}

④ 学び直しについて経済的支援、講座の拡充、情報提供のニーズが高い

国における働き方改革の推進による余暇時間の増加により、学び直しに対する市民のニーズが高まることが予測されます。

学校を卒業した人が大学などの教育機関で学びやすくするために必要な取組は、「学費の負担などに対する経済的な支援」(49.9%)、「就職や資格取得などに役立つ社会人向け講座などの拡充」(35.0%)、「学び直しに関する情報を得る機会の拡充」(34.9%)の割合が高く、学び直しを推進するためには、経済的な支援や社会人向けの講座の拡充、情報提供の充実が求められています。^{※7}

※3：20 ページ

※4：17 ページ

※5：19 ページ

※6：23、24 ページ

※7：30 ページ

本市には短期大学を含め6つの大学があり、高等教育機関が充実しており、大学との連携講座等の取組を実施しています。しかし、こうした取組について知らない市民が多い（「知らない」（75.6%））ものの、^{※8} 大学などの公開講座を受講したい市民は多い状況です。（「ぜひ受けてみたい」（8.1%）、「機会があれば受けてみたい」（56.4%））^{※9} このことは、大学で活用したい機能として、「教養を中心とする市民講座」（33.8%）、「医療系（健康、リハビリに関する相談や設備）」（27.7%）の割合が高いことからもうかがえます。^{※10}

⑤ 学習分野に応じた取組の課題

生涯学習を推進するには、生涯学習の主役となる市民の声、ニーズを把握し、生涯学習の施策や取組へ生かしていくことが重要です。

人生100年時代をみすえ、人間関係づくりや、孤立化防止等、趣味の学びや交流を通じて市民だれもが人生を豊かにするための生涯学習を推進する必要があります。

また、趣味的な学習以外にも健康・スポーツ等の活動に取り組んでいる市民も多くなっており、ライフステージや学習段階に応じた学習機会が提供できるよう、学校、民間団体、生涯学習施設間が相互に連携し、市民が生涯学習の資源を有効に活用できるようなネットワークを構築することが必要です。

さらに、学び直しについては、大学や企業等との連携を強化し、市民のニーズに沿った生涯学習の機会を提供していくとともに、学び直しの機会について広く情報提供していくことが必要です。

※8：31 ページ

※9：31 ページ

※10：32 ページ

(2) 学習環境を充実する取組

茨木市の 特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広報誌・市ホームページ・生涯学習情報誌「NextStage」等で幅広く、生涯学習の講座等の情報提供を行っている。 ○ 「生涯学習センターきらめき」を拠点として、生涯学習を展開している。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民のニーズに応じた情報を提供するとともに、ライフステージに応じた効果的な情報提供の手段を検討することが必要である。 ○ さまざまな人が生涯学習に参加できる多様な学習機会を提供することが必要である。 ○ 全市での生涯学習を提供する仕組みを整えることが必要である。

① 生涯学習に関する情報入手の手段はライフステージによって異なる

本市では、市民が生涯学習に取り組むきっかけづくりとして、広報誌・市ホームページ・生涯学習情報誌「NextStage」等で生涯学習の講座等の情報提供を行っています。

アンケート調査では、生涯学習に取り組んでいない理由として、「仕事や家事が忙しく、時間がないから」(46.0%)が最も高く、次いで「きっかけがないから」(34.6%)の割合が高くなっています。^{※11}また、学習をしていない人でも、「今後学習を希望する」(32.4%)人が多くいることから、^{※12}その学習意欲が行動に結びつくような情報提供が必要となります。

また、市民の生涯学習情報を入手する手段として、「インターネット」(46.7%)が最も高く、次いで「知人・友人・同僚・家族からの口コミ」(33.9%)、「市広報誌」(29.3%)となっています。^{※13}情報の入手手段については、50歳代未満と50歳代以上で大きく異なり、50歳代未満ではインターネットにより情報を入手している一方で、年代が高くなるにつれ、広報誌、新聞等の割合が高くなっています。^{※14}ヒアリング調査では、SNSを活用した双方向のコミュニケーションを使い、啓発することが効果的との意見もありました。

※11：34 ページ

※12：22 ページ

※13：27 ページ

※14：28 ページ

② 生涯学習に関する情報へのニーズは高く、求める情報内容はさまざま

本市の生涯学習をもっと盛んにしていくために、必要なこととして、市民、団体ともに「生涯学習に関する情報提供の充実」（市民：46.4%、団体：40.6%）が高くなっており、^{※15}生涯学習に関する市民の情報へのニーズは高くなっています。

また、生涯学習に関する必要な情報としては、「教室・講座の情報」（53.9%）、「イベント情報（講演会・発表会・展覧会・スポーツ・レクリエーション大会など）」（51.2%）、「施設の情報」（21.3%）、「資格取得の情報」（20.8%）が高くなっており^{※16}、市民の求める情報の内容はさまざまとなっています。

③ ライフステージによって生涯学習に参加しやすい日時が異なる

生涯学習をする日時については、60歳代以上では「いつでも」の割合が高いものの、60歳代未満で、「土曜日」「日曜・祝日」の割合が高く、ライフステージによって生涯学習に参加しやすい日時が異なっています。^{※17}学習意欲があっても「忙しくて時間がない」という人もみられ、時間がない人でも手軽に始められる学習方法や、参加しやすい講座等の開催日の検討が必要とされています。

④ 生涯学習センターでの講座の認知度が低く、市民の多くが利用できていない

生涯学習に取り組んでいる方法・形態をみると、「公民館^{※18}や生涯学習センターなど公共施設における講座や教室」（32.9%）の割合が高くなっており、^{※19}生涯学習を現在していないが、今後はしていきたい人でも「公民館や生涯学習センターなど公共施設における講座や教室」（49.2%）を求める割合は高く^{※20}、生涯学習を実施する場としての公共施設は重要となります。

本市では、「生涯学習センターきらめき」を生涯学習の拠点として、生涯学習を展開していますが、アンケート調査では、生涯学習センターで行っている講座について「知らなかった」（60.6%）の割合が6割を超えており、^{※21}「参加したことがない」（86.4%）の割合が8割以上と市民の多くが生涯学習センターでの講座を利用できていない状況です。^{※22}ヒアリング調査においても、参加者の固定化の指摘もありました。

※15：33、40ページ

※16：29ページ

※17：36ページ

※18：13ページ

※19：21ページ

※20：26ページ

※21：37ページ

※22：37ページ

⑤ 学習環境を充実する取組の課題

生涯学習を推進するためには、市民が生涯学習を身近なものにとらえ、身近で気軽に生涯学習に取り組む環境づくりが必要となります。

市民の学習意欲が行動に結びつくためには、市民のニーズに応じた情報を提供するとともに、ライフステージに応じた効果的な情報提供の手段を検討することが重要です。

また、生涯学習に参加しやすい時間や日程については、ライフステージにより異なり、さまざまな人が生涯学習に参加できる多様な学習機会を提供することが必要です。

生涯学習を実施する場としての施設の重要性は高いものの、高齢化の進行により、生涯学習センターへのアクセスについての課題も指摘されています。身近な地域の生涯学習の場である各公民館・コミュニティセンター等の活動を支援するとともに、ニーズの高い講座については、さまざまな地域での実施も検討するなど、全市での生涯学習を提供する仕組みを整える必要があります。

(3) まちづくりを支える生涯学習の取組

茨木市の 特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生涯学習で学んだことを地域や社会に活かしたい市民が多い。 (アンケート) ○ 各小学校区に設置されている公民館・コミュニティセンター等を中心とした地域活動が活発に行われている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域活動と生涯学習をつなぐコーディネート機能の充実が必要である。 ○ 学校や地域の場でまちづくりの推進を担う人材の育成が必要である。 ○ 活発に行われている公民館活動等を推進するとともに、学校、地域の団体や大学等との連携による、地域の活性化が必要である。

① 生涯学習で学んだことを地域や社会に活かしたい市民が多い

生涯学習に取り組んでいる目的として、「地域や社会をよりよくするため」(6.8%)の割合が国調査(16.4%)に比べて低くなっていますが、^{※23} 地域活動や学校活動などで自分の能力を生かしてみたいと思う市民(53.0%)は半数を超えており、生涯学習で学んだことを地域や社会に活かしたい市民が多くいます。^{※24}

② 生涯学習で学んだ内容を地域活動への活用するためには活動に関する情報やマッチングの仕組み、人材育成が必要とされている

地域においては、各小学校区に設置されている公民館・コミュニティセンターを中心とした活動が活発に行われており、生涯学習の活動を地域の活性化につなげています。

アンケート調査では、生涯学習を通して身につけた知識・技能や経験を地域活動に活用していくために必要なこととして、市民、団体ともに「活動に関する情報の提供」(市民：57.3%、団体：42.2%)、「生涯学習で学習した知識・技能を還元できるマッチングの仕組み」(市民：32.5%、団体：25.0%)、「活動をけん引するリーダーや指導者、ボランティア・コーディネーターの養成」(市民：23.0%、団体：14.1%)が高く、^{※25} 活動に関する情報やマッチングの仕組み、人材育成が必要となっています。

また、ヒアリング調査では、生涯学習活動を地域の活動につなげていくためには、他団体との交流や多世代交流が重要との意見があげられました。

※23 : 17、18 ページ
 ※24 : 37 ページ
 ※25 : 38、42 ページ

③ まちづくりを支える生涯学習の取組の課題

生涯学習を推進するためには、学んだ成果を地域に還元していくという視点も重要となります。

生涯学習を地域で展開する上では、人材の育成が重要であり、生涯学習活動を中心として、学校や地域の場でまちづくりの推進を担うボランティアの育成が必要になります。

また、市民のニーズに応じた活動を各地域で展開するため、地域での活動に関する情報を提供するとともに、地域活動と生涯学習をつなぐコーディネート機能の充実が求められます。

さらに、学習や発表の機会を通じて、学校、地域の団体や大学等との連携を図ることで、多様な人々との交流を促進し、地域の活性化につなげていくことが必要です。

茨木市生涯学習に関する調査分析
報告書

平成31年（2019年）3月

茨木市 市民文化部 文化振興課
茨木市立生涯学習センター内

〒567-0028 大阪府茨木市畑田町1-43
TEL：072-624-8182 FAX：072-622-1268